

履 修 ガ イ ド

2 0 2 2 年 度

所属学科	
学籍番号	
氏名	

東京海洋大学 海洋資源環境学部

Tokyo University of Marine Science and Technology
(School of Marine Resources and Environment)

入学時に配布した履修ガイドを卒業するまで使用します。

東京海洋大学の理念・目標

【大学の理念】

人類社会の持続的発展に資するため、海洋を巡る学問及び科学技術に係わる基礎的・応用的教育研究を行う。

【大学の人材養成と目標】

我が国が海洋立国として発展し、国際貢献の一翼を担っていくためには、国内唯一の海洋系大学である東京海洋大学が、「海を知り、守り、利用する」ための教育研究の中心拠点となって、その使命を果たす必要がある。このような基本的観点に立ち、本学は、研究者を含む高度専門職業人養成を核として、海洋に関する総合的教育研究を行い、次の能力・素養を有する人材を養成する。

- 一 海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方策を提示し、実践する能力
- 二 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力
- 三 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力
- 四 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力
- 五 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養

【東京海洋大学カリキュラムポリシー（教育の実施に関する基本的な方針）】

海洋資源環境学部

1. 教育課程編成の方針

海洋資源環境学部の授業科目は、①総合科目、②基礎科目、③基礎専門科目、④専門科目、⑤資格関連科目、で構成されています。これらの科目区分の授業および実験・実習等を体系的に編成し、組織的教育を行います。このうち特に③基礎専門科目の一部までは2学科共通の科目を多く設定し、海洋に関する基礎科学的知識を共有できるようにしています。また、一部の科目に英語授業や対話型授業を導入し、国際化への対応や様々な課題への能動的・実践的な対応能力を育成します。

2. 教育課程実施の方針

- ・総合科目は、全学体制のもとで開講され、幅広い教養、論理的思考能力、文化的素養、国際的視野、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養うことを目的に、海洋に特化した大学にふさわしい内容を精選して構成されています。
- ・基礎科目では、専門科目を学ぶための基盤となる体系的な自然科学、数理科学を学ぶとともに、進級要件化されている英語資格試験関連の講義と演習を行います。
- ・基礎専門科目および専門科目について、海洋環境科学科では、海洋学、海洋生物学に関する基礎および専門的知識を修得させるとともに、海洋の環境をめぐる課題設定能力と解決能力の涵養を通じて、海洋の現場における観測や環境調査の能力を育成します。また、海洋資源エネルギー学科では、海洋に関する基礎的知識と工学の基礎的知識を基盤に、海底資源、海洋再生可能エネルギーなどの持続可能な利用に関連する専門的知識と技術を修得させるとともに、海洋の利用をめぐる課題設定能力と解決能力の涵養を通じて、海洋開発の計画、管理、現場実務の能力を育成します。
- ・専門科目については、状況を大局的に把握し、諸課題を総合的に理解・判断できる能力の修得を目標として、講義、演習、実験、実習を編成し、組織的かつ体系的な教育を行います。
- ・全ての科目において、学習成果の評価基準を明示するとともに評価結果の活用を通して学生の自律的学習力を育成します。

海洋環境科学科

1. 教育課程編成の方針

海洋の環境と生物に関する基礎的知識を基盤に、その保全や生態系に関する専門的知識と技術を修得させると共に、海洋の諸現象を解明する能力を育成します。授業科目は、①総合科目、②基礎科目、③基礎専門科目、④専門科目、⑤資格関連科目、で構成されます。③基礎専門科目では海洋資源環境学部2学科共通の科目を多く設定し、海洋の環境と資源の学修へ導入する基礎科学的知識を共有できるようにしています。④専門科目では、海洋学科目群と海洋生物学科目群を設定し、専門的な科目を体系的に学習します。さらに、一部の科目に英語授業や対話型授業を導入し、国際化への対応や能動的・実践的対応能力を育成します。

2. 教育課程実施の方針

- (1)総合科目および基礎科目は、海洋資源環境学部のポリシーに準じています。
- (2)基礎専門科目は、海洋の環境と資源の学修へ導入する基礎科学的知識を修得させるとともに、海洋の環境と資源をめぐる課題設定能力と解決能力の涵養を通じて、海洋の現場における観測や環境調査の能力を育成します。
- (3)専門科目は、海洋学、海洋生物学に関する専門的知識を修得させるとともに、状況を大局的に把握し、諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得されることを目標として、学部共通の講義、演習、実験、実習を編成し、組織的かつ体系的な教育を行います。
- (4)全ての科目において、学習成果の評価基準を明示するとともに評価結果の活用を通して学生の自律的学習力を育成します。

海洋資源エネルギー学科

1. 教育課程編成の方針

海洋に関する基礎的知識と工学の基礎的知識を基盤に、資源・エネルギーの様々な利用に関連する専門的知識と技術を修得させると共に、海洋の利用に関する幅広い利用技術、海洋開発の計画、管理、現場実務の能力を育成します。授業科目は、①総合科目、②基礎科目、③基礎専門科目、④専門科目、⑤資格関連科目で構成されます。③基礎専門科目では海洋資源環境学部2学科共通の科目を多く設定し、海洋の環境と資源の学修へ導入する基礎科学的知識を共有できるようにしています。④専門科目では、海洋開発学科目群と応用海洋工学科目群を設定し、専門的な科目を体系的に学習します。さらに、一部の科目に英語授業や対話型授業を導入し、国際化への対応や能動的・実践的対応能力を育成します。

2. 教育課程実施の方針

(1) 総合科目および基礎科目は、海洋資源環境学部のポリシーに準じています。

(2) 基礎専門科目は、海洋の環境と資源の学修へ導入する基礎科学的知識を修得させるとともに、海洋をめぐる課題設定能力と解決能力の涵養を通じて、海洋の現場における観測や環境調査の能力を育成します。

(3) 専門科目は、海洋開発学、応用海洋工学に関する専門的知識を修得させるとともに、状況を大局的に把握し、諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得されることを目標として、学部共通および学科共通の講義、演習、実験、実習を編成し、組織的かつ体系的な教育を行います。

(4) 全ての科目において、学習成果の評価基準を明示するとともに評価結果の活用を通して学生の自律的学習力を育成します。

【東京海洋大学ディプロマポリシー（卒業認定、学位授与に関する基本的な方針）】

海洋資源環境学部

1. 目指すべき人材像（個性、特色、魅力）

海洋資源環境学部においては、海洋環境の保全と、資源の持続的利用に関心を持ち、諸課題をグローバルな観点から俯瞰し、自ら考え、解決するための知識と技術を持った高度専門職業人の養成を目指します。

2. 学生が身につけるべき能力、素養の目標

- ・語学を含むコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、多様な社会・文化についての理解力を兼ね備えた、高い国際的素養。
- ・大気から海底下に至る総合的な海洋科学の基礎と、海洋自然エネルギー、資源や海洋利用技術、あるいは海洋環境の保全、修復や影響評価等に関する専門知識
- ・様々な情報にもとづいて、自ら論理的に考察し、高い倫理観を持つ的確な判断を下せる能力
- ・様々な状況において知識を有効に活用し、それらを統合して海洋の現場で活かす応用力と実践力

3. 卒業認定の要件

学士課程にあつては、所定の年限を在学し、学部の教育目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数を修得した学生に対して卒業を認定し、学位（海洋科学）の学位を授与します。

海洋環境科学科

1. 目指すべき人材像（個性、特色、魅力）

海洋の環境と生物に関心を持ち、これらに係る諸課題について幅広く習得した知識と技術を基盤として、自ら考え、解決するための知識と技術を有する高度専門職業人の養成を目指します。

2. 学生が身につけるべき資質、能力の目標

(1) 豊かな国際性と幅広い教養

語学を含むコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、多様な社会・文化についての理解力を兼ね備えた、高い国際的・文化的教養

(2) 幅広い専門的知識

海洋に係る幅広い基礎科学、および海洋環境の保全、修復、影響評価等に関する専門知識

(3) 自ら考え判断できる能力

様々な情報にもとづいて、自ら論理的に考察し、的確な判断を下せる能力

(4) 現場で通用する実践力

実験、実習や卒業研究などを通して得た専門知識・能力を総合し、現場における大局化した諸問題について主体的かつ実践的に探究・解決・行動できる能力

3. 卒業認定の要件

所定の年限を在学し、学部および学科の教育目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（海洋科学）の学位を授与します。

海洋資源エネルギー学科

1. 目指すべき人材像（個性、特色、魅力）

海洋の資源やエネルギーの様々な利用技術に関心を持ち、これらに係る諸課題について、幅広く習得した知識と技術を基盤として、自ら考え、解決するための知識と技術を有する高度専門職業人の養成を目指します。

2. 学生が身につけるべき資質、能力の目標

(1) 豊かな国際性と幅広い教養

語学を含むコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、多様な社会・文化についての理解力を兼ね備えた、高い国際的・文化的教養

(2) 幅広い専門的知識

海洋に係る幅広い基礎科学、および海底の資源、および再生可能エネルギーの利用と海洋環境の保全に関する専門知識

(3) 自ら考え判断できる能力

様々な情報にもとづいて、自ら論理的に考察し、的確な判断を下せる能力

(4) 現場で通用する実践力

実験、実習や卒業研究などを通して得た専門知識・能力を総合し、現場における大局化した諸問題について主体的かつ実践的に探究・解決・行動できる能力

3. 卒業認定の要件

所定の年限を在学し、学部および学科の教育目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（海洋科学）の学位を授与します。

目 次

海洋資源環境学部の概要

〔1〕 学科・課程の概要	3
〔2〕 水圏科学フィールド教育研究センター	4
〔3〕 練習船	5

学 修 の 手 引 き

I. 履修関係

〔1〕 授業科目の区分	9
〔2〕 授業	9
〔3〕 履修方法及び履修手続き	10
〔4〕 試験及び成績評価	13
〔5〕 単位の授与	14
〔6〕 実習・実験	14
〔7〕 卒業論文及びセミナーの履修	14
〔8〕 海洋資源環境学部のGPA制度について	15
〔9〕 卒業及び進級	16
〔10〕 再入学	24
〔11〕 外国人留学生の授業科目履修上の特例	24
〔12〕 学部学生の大学院授業科目の先行履修	25

II. 本学以外の学修

〔1〕 放送大学の授業科目履修	29
〔2〕 大学以外の教育施設等における学修	31
〔3〕 他大学の公開授業科目の履修	32
〔4〕 既修得単位の認定	32

III. 資格取得に関する学修

〔1〕 法定資格	
1. 教育職員免許	35
2. 学芸員	41
3. 技術士補	43
4. 海技士の免許	48
5. 第一級海上特殊無線技士	51
6. 船舶衛生管理者	51
〔2〕 学内資格	
1. 海洋学コース（学部から博士前期課程まで）	55
2. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）	56

IV. 教務関係の諸手続等

〔1〕 授業料について	59
〔2〕 教務関係事項の通知及び連絡	59
〔3〕 証明書	59
〔4〕 欠 席	59
〔5〕 休 学	60
〔6〕 復 学	60
〔7〕 退 学	60

[8] 転学科	61
[9] 転学部	61
[10] 気象警報発令及び交通機関不通時等の授業等の取扱いについて	62
[11] 国立科学博物館の利用	63
[12] 国立美術館の利用	63
[13] 障害等のある学生に対する事前相談について	63

諸 規 則

[1] 東京海洋大学海洋資源環境学部履修規則	67
--------------------------------	----

海洋資源環境学部の概要

- 〔1〕 学科・課程の概要
- 〔2〕 水圏科学フィールド教育研究センター
- 〔3〕 練習船

〔1〕 学科・課程の概要

1. 海洋資源環境学部の教育研究上の目的

海洋資源環境学部においては、海洋環境の保全と、海底を含めた海洋資源の開発と持続的利用に関心を持ち、これらに係わる諸課題をグローバルな観点から俯瞰し、解決するための高度な知識と技術を身につけ、応用力のある高度専門職業人を養成するとともに、これらの諸課題に係わる基礎から応用に至るまでの研究を行うことにより、人類社会の発展に貢献することを教育研究上の目的とする。

2. 学科・課程の概要

海洋資源環境学部には2学科があり、各学科の概要は次のとおりです。

○海洋環境科学科 (Undergraduate Course of Ocean Sciences)

海洋環境科学科の教育研究上の目的

海の諸現象を把握し予測する海洋学及び生物と環境との関係を解析する海洋生物学を基に、環境保全・修復の科学・技術を基礎的・応用的・総合的に教育研究する。

○海洋資源エネルギー学科 (Undergraduate Course of Marine Resources and Energy)

海洋資源エネルギー学科の教育研究上の目的

環境を保全しつつ海の資源や再生可能エネルギーを利用するための科学・工学及び海洋の開発に係わる技術を基礎的・応用的・総合的に教育研究する。

〔2〕 水圏科学フィールド教育研究センター

たてやま

館山ステーション

千葉県館山市にあり、海洋生物資源や海洋環境に関する実験・実習を行うとともに、沿岸動植物の分類、生理、生態の研究、アワビ類の種苗生産や放流、そして生物資源、漁業、環境等に関する研究を行っています。館山湾奥には専用栈橋を持つ施設が別があり、東京湾沿岸や浅海域での漁業技術研究のフィールドとして、また、水泳・漕艇・操船や漁業、環境計測に関する実習を行うほか、練習船の基地としても利用されています。

(明治34年頃開設) 〒294-0036 千葉県館山市館山96 TEL (0470) 22-0301
(昭和55年開設) 〒294-0308 千葉県館山市坂田670 TEL (0470) 29-1144

よしだ

吉田ステーション

静岡県榛原郡吉田町にあり、温暖な気候と豊かな大井川伏流水に恵まれ、ウナギ、コイ、キンギョ、ニホンナマズ等の温水性淡水魚類を飼育し、生理、病理、栄養等の基礎的研究と系統維持やバイオテクノロジー並びに食品加工技術や食品安全性に関するフィールド教育・研究を行うとともに、生物生産や食品生産に関する実験・実習を行っています。

(昭和8年開設) 〒421-0302 静岡県榛原郡吉田町川尻1581 TEL (0548) 32-5848

おおいずみ

大泉ステーション

山梨県北杜市大泉町にあり、八ヶ岳山麓の海拔1,060mの高地でニジマス、カワマス、ヤマメ、イワナ、イトウ等の冷水性淡水魚類を飼育し、生理、病理、遺伝育種・資源管理等の基礎的研究とバイオテクノロジーに関するフィールド教育・研究を行うとともに、生物生産や生物資源、そして食品科学に関連した基礎から応用までの幅広い実験・実習を行っています。

(昭和8年開設) 〒409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸5681 TEL (0551) 38-2015

とみうら

富浦ステーション

千葉県南房総市富浦町にあり、海洋工学部のオリエンテーションや水泳実習、帆走実習等が行われるとともに、海事システム工学や海洋電子機械工学に関連したレーダー、電波航法、電気及び気象海象等の実験や研究のフィールドとして活用されています。さらに東京のキャンパスから東京湾を経て黒潮外洋域へ、そして世界の7つの海につながる研究の拠点として利用されています。

(昭和41年開設) 〒299-2404 千葉県南房総市富浦町多田良851-1 TEL (0470) 33-2094

しみず

清水ステーション

静岡県静岡市清水区にあり、金属材料の大気腐食に関する研究、金属材料の耐海水性に関する研究、ステンレス鋼の微生物腐食耐食性評価試験、太陽光導光装置を用いた微生物燃料電池の発電効率向上に関する研究、バラスト水の機械処理法、学内プロジェクト研究等を行っています。

〒424-0902 静岡県静岡市清水区折戸4-1-30 TEL (054) 334-0457

〔3〕 練習船

本学には大型の練習船があり、日本近海から遠洋海域に至るまで各海域での実習教育・調査研究を担っています。練習船では航海学・運用学・機関学及び海洋観測等の講義や実習、各種の乗船実習を行っています。ここでは、本学部で主に利用されている練習船を紹介します。

うみ たか まる 海鷹丸

(総トン数1,886.00t 国際トン数3,391t 長さ93.0m 速力17.4ノット)

平成12年6月30日、三井造船株式会社玉野事業所において竣工

太平洋、インド洋、南氷洋を含む世界中の海を行動海域とし、海洋科学専攻科学生に高度な海上技術者教育を行い、調査研究にも従事します。また学部学生には乗船実習を行い、海技士資格取得の教育も行います。



しん よう まる 神鷹丸

(総トン数986.00 t 国際トン数1,343t 長さ64.55m 速力12ノット)

平成28年3月31日、三菱重工業株式会社下関造船所において竣工

日本周辺から太平洋赤道海域までを航海し、水産・海洋に関する実習、海技教育などに取り組み、高度な海上技術者を養成しています。海中はもちろんのこと海底下までも調査できる最新鋭の観測装置を搭載しています。



しお じ まる 汐路丸

(総トン数775.00 t 国際トン数1,093t 長さ60.73m 速力12ノット)

令和3年10月13日、ジャパン マリンユナイテッド株式会社 横浜事業所において竣工

東京湾を基点に近海を航行し、船舶職員の養成、海洋開発人材育成、船舶運航技術の教育・研究、海洋環境観測・教育など、東京海洋大学の3学部すべての教育、研究に対応できる最新の練習船です。



学 修 の 手 引 き

(I. 履 修 関 係)

- 〔1〕 授業科目の区分
- 〔2〕 授業
- 〔3〕 履修方法及び履修手続き
- 〔4〕 試験及び成績評価
- 〔5〕 単位の授与
- 〔6〕 実習・実験
- 〔7〕 卒業論文及びセミナーの履修
- 〔8〕 海洋資源環境学部のG P A制度について
- 〔9〕 卒業及び進級
- 〔10〕 再入学
- 〔11〕 外国人留学生の授業科目履修上の特例
- 〔12〕 学部学生の大学院授業科目の先行履修

〔1〕 授 業 科 目 の 区 分

1. 海洋資源環境学部の授業科目の区分は次のとおりです。

授 業 科 目 の 区 分		内 容	
総合科目	共通導入科目	全学科の共通科目として開講しています。 自由選択については、本学部の総合科目の中から自由に選択し、履修して下さい。また、他学部の総合科目のうち、本学部の授業科目と 名称が異なるもの も含めることができます。	
	文化学系		
	哲学・科学論系		
	社会科学系		
	健康・スポーツ系		
	外国語系		
自由選択			
基礎科目	必修	各学科の共通科目として開講しています。	
	選択		
	グローバル・キャリア関連科目		必修 選択
専門科目	基礎専門科目	必修 選択	各学科の専門に係わる科目として開講しています。 海洋生命科学部及び海洋工学部の専門科目、本学部の他学科の専門科目（所属学科と同一名称又は共通開講の科目を除く。）及び基礎科目のグローバル・キャリア関連科目の選択科目を他学部・他学科等開講科目として履修します。なお、開講する学部・学科において卒業に必要な単位数に含まない授業科目は、卒業に必要な単位数に算入されません。
	必修		
	選択		
	卒業研究科目		
	他学部・他学科等開講科目		

〔2〕 授 業

1. 学 期

学年を次のとおり2学期又は4学期に区分しています。

2 学 期		4 学 期	
前 学 期	4月1日から9月30日まで	1 学 期	4月1日から9月30日までの間で別途定める期間（学事予定表で確認）
		2 学 期	
後 学 期	10月1日から3月31日まで	3 学 期	10月1日から3月31日までの間で別途定める期間（学事予定表で確認）
		4 学 期	

【学則第18条】

2. 授業の方法

授業は講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかの方法により行われます。

3. 単位

- (1) 各授業科目の単位数は、次の基準により計算します。
- ア) 1単位の履修時間は、教室内及び教室外を合わせて45時間とします。
 - イ) 講義は、15時間の授業をもって1単位とします。1時間の講義に対して2時間の予習、復習を必要とします。
 - ウ) 外国語系の科目及び演習は、30時間の授業をもって1単位とします。2時間の演習に対して1時間の予習、復習を必要とします。
 - エ) 実験、実習及び実技は、45時間の授業をもって1単位とします。

4. 授業時間

- (1) 各時限の授業時間は次のとおりです。
なお、1コマ（1時限）は、単位履修時間2時間と計算します。

時 限	授 業 時 間	休 憩 時 間
第 1 時 限	8:50～10:20	10:20～10:30
第 2 時 限	10:30～12:00	12:00～13:00
第 3 時 限	13:00～14:30	14:30～14:40
第 4 時 限	14:40～16:10	16:10～16:20
第 5 時 限	16:20～17:50	

- (2) 当該年度の授業時間割表は、学年の始め4月初旬に配布します。
※集中授業等は18時以降に行うことがあります。

5. 休業日

休業日は次のとおりです。集中授業・実験・実習・実技及び補講等は休業日でも行うことがあります。

- 日曜日及び土曜日
 - 国民の祝日に関する法律に規定する休日
 - 春季休業
 - 夏季休業
 - 冬季休業
 - 臨時休業
- 各年度の授業時間割表に掲載してある、学事予定表を参照して下さい。

※休業期間中は、窓口の開設時間を短縮します。

その際の開設時間については、事前に掲示等でお知らせします。

【学則第19条】

〔3〕 履修方法及び履修手続き

1. 履修方法

授業科目は、履修上無理のないように学年ごとに開講しています。具体的には学年始めに配布される、その年度の授業時間割表により履修することになりますが、定められた開講年次に履修しないと、次年度以降、授業時間の重複等により履修できなくなる場合があります。

特に、海洋科学専攻科へ進学する者、教員免許状、学芸員の資格を取得しようとする者は、授業時間割表に留意して履修登録もれのないようにしてください。

- (1) 本冊子に記載された進級や卒業に必要な単位数をよく確認し、要件を満たすように履修計画を立てること。
- (2) 総合科目(共通導入科目、文化学系、哲学・科学論系、社会科学系、健康・スポーツ系、外国語系の6種類)、基礎科目(必修、選択、グローバル・キャリア関連科目必修、グローバル・キャリア関連科目選択の4種類)、専門科目(基礎専門科目必修、基礎専門科目選択、必修、選択、卒業研究科目、他学部・他学科等開講科目の6種類)の16種類は、それぞれ独立した科目区分です。したがって、各区分ごとに表示された**卒業に必要な単位数以上修得しても、それをもって他の区分の科目の単位に代替することはできません。**
- (3) 総合科目のうち、必要単位数を超過した単位については、一定の単位まで、総合科目の自由選択区分の単位となります。

(4) 授業科目には修得方法等により次の区分があります。

I. 修得方法による区分

- a. 必修科目：その授業科目の単位を修得しなければ卒業できない科目を示します。
- b. 選択科目：授業科目のうちから、選択して履修できる科目を示します。

II. 免許・資格取得による区分

- a. 教育の基礎的理解に関する科目等：教育職員免許状取得に必要な教職に関する科目を示します。
- b. 海技科目：三級海技士（航海）第一種養成施設の修了に必要な科目を示します。
- c. 学芸員に関する科目：学芸員となる資格取得のために必要な科目を示します。

2. 履修年次

- (1) 履修規則別表に定める開講年次により履修するものとします。
- (2) 自分の属する年次より低年次の開講科目は履修できます。
- (3) 自分の属する年次より高年次の開講科目は、担当教員の承認を得た場合に限り履修できます。（低年次履修）
履修できる具体的な授業科目については、シラバスの「低年次履修の可否」欄で確認してください。

3. 履修科目の登録

毎年度の授業時間割の「品川地区学部学事予定表」に定められた所定の期間内に、その学期に履修しようとする授業科目を所定の方法により必ず登録し、その登録内容を確認しなければなりません。**履修登録のない授業科目を受講しても、単位は認められません。**

登録内容に不備がある場合は、所定の期間内に所定の方法で修正しなければなりません。

(1) 履修登録期間について

教務システムによる履修登録期間	履修を希望する科目を、Web上から教務システムにログインして登録してください。学外の端末からも履修登録可能です。
-----------------	--

教務課窓口での履修登録期間	履修登録の内容を修正（追加・削除）する場合は、必ず、この期間中に「履修登録確認表」を発行し、赤字で修正内容を記載の上、教務課に申し出てください。※教務システム上での修正はできません。「履修登録確認表」は、教務システムの時間割関連の個人時間割表画面から印刷できます。
---------------	--

※ 履修登録期間終了後の、履修登録及び変更、削除は一切受けないので注意してください。

(2) 履修登録上の注意点について

- (I) 履修登録はWeb上で行います。学外の端末からも履修登録可能です。ただし、実習・集中授業の履修登録は、原則、履修登録期間中にWebからは行いません。履修登録期間外に登録する、実習・集中授業の履修登録期間・方法については別途掲示等でお知らせします。
- (II) 同一科目でクラス・担当教員を間違えて登録する等、履修登録ミスが目立ちます。Webで登録後は、教務システムの時間割関連、個人時間割表画面から「履修登録確認表」を出力し、登録内容に間違いがないか、必ず確認してください。
- (III) 履修登録できる単位数に上限が設けられています。（「5. 履修登録単位数の上限」を参照）
- (IV) **必修科目も必ず履修登録してください。**
- (V) **4年次生は前学期に、本年度履修する全科目を履修登録してください。**
ただし、一部の集中授業等は除きます。

4. 他学科等及び他学部の履修

- (1) 学生は、本学部の他学科の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目等、学芸員に関する科目及び他学部の授業科目を履修することができます。ただし、他学科及び他学部の授業科目で、開講学科及び学部において卒業に必要な単位数に含まない授業科目は卒業に必要な単位数に算入されません。
また、授業科目によっては、担当教員の承認を得なければならないことがあります。また、他学部の授業科目の履修については、(2)の手続が必要となります。
- (2) 他学部の授業科目の履修を希望する学生は、①各学部の「履修ガイド」を参照し、②「他学部の授業科目履修アンケート」に所定の期間内に回答し、③場合によっては希望する科目担当教員の許可を得てください。

5. 履修登録単位数の上限

履修登録単位数には次の上限が設けられていますので、上限の範囲内で履修登録を行ってください。
上限を超えて履修登録を行った場合には、当該学期の全科目の履修登録は無効となります。
 なお、教務システムの機能により、上限を超えて履修登録ができないよう制御されています。

- (1) 前学期又は後学期における履修登録単位数の上限は、第1年次生及び第2年次生にあつては**各30単位**、第3年次生及び第4年次生にあつては**各40単位**とし、当該年度中に履修登録できる単位数は、第1年次生及び第2年次生においては**各50単位**、第3年次生及び第4年次生においては**各60単位**を上限とします。
 なお、通年科目の単位は、前学期及び後学期に平分して算入します。

各学年・学期における履修登録単位数の上限

	前学期		後学期		年間
	前学期	後学期	前学期	後学期	
1年次生	30	30	30	30	50
2年次生	30	30	30	30	50
3年次生	40	40	40	40	60
4年次生	40	40	40	40	60

→1年次の前学期に30単位登録した場合、後学期は20単位が上限となる

「履修登録単位数」の上限であることに注意！
 （「修得単位数」ではない）

- (2) 集中授業（卒業要件の項に示す科目一覧表で年次欄に「集」の表記がある科目をいう。）、学則第34条、第35条及び第36条に基づき修得したものとみなされた科目、教育の基礎的理解に関する科目等、学芸員に関する科目及び外国人留学生の授業科目の単位は、（1）で定める単位数には算入しません。

6. ナンバリング

本学で開講する授業科目について、授業内容、水準（難易度）等に応じて特定のナンバーを付与しています。これにより学生が学修したい分野について、どのように学修を進めていけば良いか等が明確になり体系的に学修を進めることが可能となります。

- (1) 科目ナンバリングコードの考え方

科目ナンバリングコードには、本学で開講されている授業科目の内容を表せるように複数のコードを付けています。コードに割り当てるコード記号は、授業科目の開講学年、必修・選択の別等を設定しています。

- (2) 科目ナンバリングの構成

本学における科目ナンバリングは次の12桁で構成されます。科目ナンバリングの構成を以下に示します。

桁数	1	2	3	4	5	6	7・8	9	10	11・12
コード	学部 専攻科 大学院 の区別	学科 大学院 専攻の 区別	学部 大学院 の課程 コース の区別	水準 (難易度)	科目 区分	必修・選択 の区別	科目 番号	授業形態	使用言語	関連する 大学院分野

- (3) ナンバリングの利用方法

学務システムのシラバス検索でフリーワード検索に、1桁目から3桁目までの該当学部等の英数字（コード）を入力すると、その学部等の開講科目を検索することができます。11桁と12桁のコード記号を用いて、大学院博士前期課程の専攻分野に関連する学部の開講科目（専門科目）を検索することもできます。また、授業科目を開講している学部・学科や専攻の確認、上位学年の同じ分野の科目の確認などを行うことができます。

※詳細は「LiveCampus>キャンパスライフ>学内共有ファイル」から確認できます。

7. 注意事項

- (1) 履修登録をしていない授業科目を受講しても、単位は認められません。間違えないよう、履修登録期間内に必ず「履修登録確認表」を印刷し、確認してください。

〔4〕 試験及び成績評価

1. 定期試験

定期試験は、学期末にその都度発表する定期試験時間割表に基づき筆記又は口述により行います。ただし、平常の試験、実技の審査又はレポートをもって代えることがあります。

2. 受験条件

履修登録を所定の期日までに行っていない者、又は出席時数が全授業時数の3分の2に満たない者は、その科目の試験を受けることができません。

3. 追試験

病気、その他やむを得ない事由で定期試験を受験できなかった者は、追試験を受けることが出来ます。

- (1) 追試験を受けようとする者は、当該科目の定期試験終了後7日以内に、その事由を証明する診断書等を添えて授業科目担当教員に追試験願を提出しなければなりません。
- (2) 追試験の実施日は、授業科目担当教員が指定します。
- (3) 追試験願の用紙は、教務課窓口にて配布しています。

4. 不正行為（カンニング等）について

本学部では、定期試験実施時に補助監督を配置するなど、不正行為に対して非常に厳しい対応を取っています。定期試験（成績の評価に係る全ての試験、レポート等含む）において、不正行為とみなされる行為があった場合は規定に従い処分され、停学（悪質な場合はさらに厳しい処分）に加え、当該学期の全ての履修が取り消し（単位修得ゼロ）となり、進級・卒業に重大な影響が出ることとなります。また、処分内容は保証人にも通知されます。

自身の学習に不安を抱えている場合には、学生支援教員や指導教員、教務課窓口等で早めに相談してください。

5. 成績評価

成績の評価は、授業科目担当教員が定期試験の成績、平常の成績、出席状況等を総合して行います。

履修科目の成績評価は、次の基準により「A+」、「A」、「B」、「C」及び「F」で行い、59点以下は不合格として単位は与えられません。

成績評価	評価点	評価基準	
合格	A+	100点～90点	到達目標を達成し、特に優秀な成績を修めている。
	A	89点～80点	到達目標を達成し、優秀な成績を修めている。
	B	79点～70点	到達目標を達成し、良好な成績を修めている。
	C	69点～60点	到達目標を達成している。
不合格	F	59点～0点	到達目標に達していない。
	(試験欠席)	—	
	(出席不足)	—	

6. 成績の通知

履修した授業科目について、成績発表日に教務システムにより確認できます。

必ず、成績発表日に確認して下さい。成績発表日は、学事予定表で確認してください。

7. 成績評価に対する申立て制度

履修登録を行った授業科目の成績評価に疑義を生じた場合は、成績発表時に示す所定の期間内に、「成績評価に関する説明願」を教務課教務係に提出することにより、後日、当該科目の担当教員等から説明を受けることができます。必ず、成績発表時に掲示される申立て期間内に行ってください。なお、受付期間等詳細については成績発表時に掲示します。

【履修規則第13条、第14条、第15条、第16条】

〔5〕 単位の授与

1. 単位の授与

授業科目を履修し、学期末に行われる試験に合格した者には所定の単位を与えます。

ただし、納付すべき入学料、授業料を期日までに納付しないことにより除籍された学生は、除籍された学期に合格した授業科目の単位は授与しません。

2. 再履修

不合格となった科目の単位を修得するためには、その科目を再履修しなければなりません。
また、合格し単位を修得した科目を再度履修することはできません。

【学則第32条・履修規則第17条、第18条】

〔6〕 実習・実験

授業時間割表に掲載されていない実習等は、その都度、開講時期、履修者の募集を掲示によりお知らせしますが、事前にガイダンスを実施する科目が数多くあります。履修を希望する者は、必ずこのガイダンスに出席してください。

〔7〕 卒業論文及びセミナーの履修

1. 卒業論文及びセミナーの履修

- (1) 卒業論文は、通年で8単位、セミナーは前学期1単位の科目です。
- (2) 第4年次進級要件を満たさない学生は、卒業論文及びセミナーを履修することはできません。
- (3) セミナーの単位修得には、eAPRIN（イー・エイプリン）による研究者倫理教育の受講が必要です。

2. 卒業論文作成申告及び提出

卒業論文は、あらかじめ指導教員の許可を得た題目を「卒業論文作成申告書」により所定の期日までに、教務課に届け出なければなりません。また、卒業論文は、完成後指導教員に提出しなければなりません。

3. 卒業論文及びセミナーの指導教員

- (1) 卒業論文及びセミナーは、所属する学科の教員の許可を得て、その指導のもとに履修します。
- (2) (1)にかかわらず所属する学科主任の承認を得た場合は、他学科等の教員の許可を得て、その指導のもとに履修することができます。

【履修規則第22条、第23条、別表2】

〔 8 〕 海洋資源環境学部の G P A 制度について

海洋資源環境学部では、学習状況の把握や自学自習の促進を目的として、G P A (Grade Point Average) 制度を導入しています。

(1) 算出方法

$$G P A = \frac{(A+\text{の単位数} \times 4 + A\text{の単位数} \times 3 + B\text{の単位数} \times 2 + C\text{の単位数} \times 1)}{\text{履修登録した全ての授業科目の単位数}} = G P$$

(2) 定義

- ・ A+ = 100~90 点, A = 89~80 点, B = 79~70 点, C = 69~60 点
- ・ 「G P」 = (A+の単位数×4 + Aの単位数×3 + Bの単位数×2 + Cの単位数×1)
- ・ 「不合格」 = 「不可 (F)」、 「試験欠席 (N P)」、 「出席不足 (M)」
- ・ 「卒業要件に算入しない科目」、 「履修中 (I P)」、 「認定 (T)」 は G P A 計算から除外される。
- ・ G P A 値については、小数点第 4 位を四捨五入する。

(3) 開示方法

教務システムの成績情報関連の GPA の参照画面から確認することができます。

但し、成績評価に対する申し立て期間が終了するまでは、当該学期の GPA は反映されませんので、ご注意ください。

(4) 利用方法

教務システムのユーザーマニュアルをご覧ください。

(5) 教務システム上の表示区分

「累積」… 「入学時から集計時」までの合計した数値を示す。

「年」… 該当年度の「前学期」と「後学期」の合計した数値を示す。

「学期」… 「前学期」又は「後学期」を示す。但し、「通年科目」は「後学期」に算入する。

(6) その他

成績証明書及び成績通知における成績表記は「A+」「A」「B」「C」とします。

正式な成績通知は、教務システムの成績情報関連の成績情報の参照画面から確認してください。

〔9〕卒業及び進級

【1. 各学科学生】

1. 卒業要件

本学部を卒業するためには、総合科目、基礎科目及び専門科目のそれぞれについて、学科により次表の単位を修得しなければなりません。

【海洋資源環境学部 各学科】 各学科の卒業に必要な単位数

学 科		海洋環境科学科	海洋資源エネルギー学科
授業科目の区分			
総合科目	共通導入科目	8	8
	文化学系	4	4
	哲学・科学論系	4	4
	社会科学系	4	4
	健康・スポーツ系	2	2
	外国語系	8	8
	自由選択	4	4
基礎科目	必修	12	12
	選択	8	8
	グローバル・キャリア関連科目	必修 2 選択	2 (専門科目他学部・他学科等開講科目の単位数に算入) (専門科目他学部・他学科等開講科目の単位数に算入)
専門科目	基礎専門科目	必修 2 選択	12 15
	必修	4	2
	選択	32 (主選択科目群からの18単位を含む)	26 (主選択科目群からの9単位を含む)
	卒業研究科目	9	9
	他学部・他学科等開講科目	4	4
卒業に必要な単位		124	124
備考： 1 総合科目のうち自由選択については、本学部の総合科目の中から自由に選択し、履修すること。また、他学部の総合科目のうち、本学部の授業科目と名称が異なるものも含めることができる。 2 他学部・他学科等開講科目は、海洋生命科学部、海洋工学部の専門科目及び本学部の他学科の専門科目（所属学科と同一名称又は共通開講の科目を除く。）及び基礎科目のグローバル・キャリア関連科目の選択科目とする。なお、これらの授業科目で、開講する学部及び学科において卒業に必要な単位数に含まない授業科目は、卒業に必要な単位数に算入しない。			

(注) 上記の表に示された、授業科目の区分ごとに定められた単位数を超えて修得した単位は、自由選択として認められる場合を除き、卒業に必要な単位として算入できません。

総 合 科 目

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								卒業必要 単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通導入科目	フレッシュマンセミナー	①集							①	8単位
	海洋生命科学概論	①							①	
	海洋工学概論	①							①	
	海洋資源環境学概論	①							①	
	情報リテラシー	②							②	
	日本語表現法		②						②	
	計	6	2	0	0	0	0	0	0	8
文化学系	文学		2						2	4単位
	人文地理学	2							2	
	ヨーロッパ文化論		2						2	
	芸術学		2						2	
	英米社会文化入門				2				2	
	英米表象文化入門			2					2	
	計	2	6	2	2	0	0	0	0	12
哲学・科学論系	哲学	2							2	4単位
	哲学史				2				2	
	心理学			2					2	
	現代倫理学		2						2	
	生命・環境文化			2					2	
	科学史	2							2	
	技術史				2				2	
		計	4	2	4	4	0	0	0	
社会科学系	社会学		2						2	4単位
	国際法	2							2	
	日本国憲法		2						2	
	経済学	2							2	
	近現代史	2							2	
	政治学		2						2	
		計	6	6	0	0	0	0	0	
スポ健康・系	健康科学	2							2	2単位
	スポーツⅠ	1							1	
	スポーツⅡ		1						1	
		計	3	1	0	0	0	0	0	
外国語系	Basic English I*	1							1	8単位
	Basic English II*		1						1	
	Practical English I	1							1	
	Practical English II		1						1	
	Effective English I*			1					1	
	Effective English II*				1				1	
	Interactive English I*			1					1	
	Interactive English II*				1				1	
	Intensive English I					1			1	
	Intensive English II						1		1	
	ドイツ語Ⅰ	1							1	
	ドイツ語Ⅱ		1						1	
	ドイツ語Ⅲ			1					1	
	ドイツ語Ⅳ				1				1	
	フランス語Ⅰ	1							1	
	フランス語Ⅱ		1						1	
	フランス語Ⅲ			1					1	
	フランス語Ⅳ				1				1	
	ロシア語Ⅰ	1							1	
	ロシア語Ⅱ		1						1	
ロシア語Ⅲ			1					1		
ロシア語Ⅳ				1				1		
中国語Ⅰ	1							1		
中国語Ⅱ		1						1		
中国語Ⅲ			1					1		
中国語Ⅳ				1				1		
スペイン語Ⅰ	1							1		
スペイン語Ⅱ		1						1		
スペイン語Ⅲ			1					1		
スペイン語Ⅳ				1				1		
※韓国語Ⅰ	2	(2)						2		
※韓国語Ⅱ	2	(2)						2		
	計	11	7	7	7	1	1	0	0	34
自由選択科目										◇ 4 単位
卒業に必要な単位数（総合科目合計）										34単位

○印の数字は、必修科目の単位数を表す。集印は集中授業を表す。

*印 三級海技士（航海）の資格を取得する学生は、*印の科目の中から2科目以上、修得しなければならない。

※印の科目は、放送大学との単位互換協定により修得できる。

◇印の単位は、本学部の総合科目の授業科目の中から自由に選択し、修得すること。また、他学部の総合科目のうち、本学部と名称の異なるものも含めることができる。

基 礎 科 目

[海洋環境科学科]

授 業 科 目		年 次 及 び 単 位 数								卒業必要 単位数	
		1年		2年		3年		4年			計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
必修科目	基礎微積分Ⅰ	②								②	12単位
	基礎微積分Ⅱ	②								②	
	物理学	②								②	
	化学	②								②	
	生物学	②								②	
	地学	②								②	
選択科目	数理解析		2							2	8単位
	線形代数		2							2	
	数理科学			2						2	
	物理数学			2						2	
	統計学				2					2	
	情報処理論			2						2	
	物理学実験				1					1	
	化学実験				1					1	
	生物学実験			1						1	
	地学実験			1						1	
	データサイエンス入門A		1							1	
データサイエンス入門B		1							1		
基礎科目計		12	6	8	4	0	0	0	0	30	

[海洋資源エネルギー学科]

授 業 科 目		年 次 及 び 単 位 数								卒業必要 単位数	
		1年		2年		3年		4年			計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
必修科目	基礎微積分Ⅰ	②								②	12単位
	基礎微積分Ⅱ	②								②	
	物理学	②								②	
	化学	②								②	
	生物学	②								②	
	地学	②								②	
選択科目	数理解析		2							2	8単位
	線形代数		2							2	
	数理科学			2						2	
	物理数学			2						2	
	統計学				2					2	
	情報処理論			2						2	
	物理学実験				1					1	
	化学実験				1					1	
	生物学実験			1						1	
	地学実験			1						1	
	データサイエンス入門A		1							1	
データサイエンス入門B		1							1		
基礎科目計		12	6	8	4	0	0	0	0	30	

[学部共通]

授 業 科 目		年 次 及 び 単 位 数								卒業必要 単位数	
		1年		2年		3年		4年			計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
キャリア グローバル 関連 科目	TOEIC入門	①								①	2単位
	TOEIC演習					①集				①	
	グローバルキャリア入門	2集								2	
	海外派遣キャリア演習Ⅰ					2集				2	
	海外派遣キャリア演習Ⅱ							2集		2	
	キャリア形成論Ⅰ	1集								1	
	キャリア形成論Ⅱ					1集				1	
	基礎科目計	1	3	0	0	0	4	0	2	10	

○印の数字は、必修科目の単位数を表す。集印は集中授業を表す。

グローバル・キャリア関連科目の選択科目は、専門科目他学部・他学科等開講科目の単位数に算入する。

専門科目 [海洋環境科学科]

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
Natural Sciences			②						②	19単位
物理学概論Ⅰ	2								2	
物理学概論Ⅱ		2							2	
化学概論Ⅰ	2								2	
生物学概論Ⅰ	2								2	
地球科学概論Ⅰ	2								2	
化学概論Ⅱ		2							2	
生物学概論Ⅱ			2						2	
地球科学概論Ⅱ			2						2	
データサイエンス			2						2	
数値モデリング					2				2	
数値モデリング演習						1			1	
分析化学		2							2	
●職業指導						1			1	
●水産科教育法Ⅰ					2				2	
●水産科教育法Ⅱ						2			2	
●理科教育法Ⅰ		2							2	
●理科教育法Ⅱ			2						2	
●理科教育法Ⅲ				2					2	
●理科教育法Ⅳ					2				2	
基礎専門科目計	0	8	10	8	6	6	0	0	38	

物理海洋学Ⅰ				2					2	28単位
海底科学Ⅰ				2					2	
海洋政策学						2			2	
環境アセスメント論						2			2	
海域連携利用論						2			2	
海洋資源環境キャリア実習Ⅰ						1集			1	
海洋資源環境キャリア実習Ⅱ							1集		1	
乗船実習Ⅰ				1集					1	
乗船実習Ⅱ						3集			3	
乗船実習Ⅲ							3集		3	
●乗船実習Ⅳ								9集	9	
●水産海洋概論Ⅰ	2								2	
●水産海洋概論Ⅱ		2							2	
専門科目計	2	2	0	5	6	4	4	9	32	

物理海洋学Ⅱ					2				2	必修 4単位 選択 32単位 ※
環境情報解析学Ⅰ				2					2	
沿岸海洋学Ⅰ				2					2	
沿岸海洋学Ⅱ					2				2	
生物海洋学		2							2	
化学海洋学					2				2	
海洋学研究の最前線					2				2	
環境動態学Ⅰ				2					2	
環境動態学Ⅱ					2				2	
環境情報解析学Ⅱ					2				2	
海底科学Ⅱ					2				2	
General Oceanography				②					②	
海洋学実習Ⅰ				1集					1	
海洋学実習Ⅱ					1集				1	
海洋科学実験						1			1	
海底科学実験						1			1	
選択科目計	0	0	3	8	15	2	0	0	28	

海洋生物学Ⅰ			2						2	26単位
海洋生物学Ⅱ			2						2	
海洋生物学Ⅲ			2						2	
海洋生物学Ⅳ					2				2	
環境生命化学Ⅰ					2				2	
環境生命化学Ⅱ					2				2	
海洋生態学Ⅰ					2				2	
海洋生態学Ⅱ						2			2	
Aquatic Biology						②			②	
海洋生物学研究の最前線						2			2	
海洋生物学実験Ⅰ					1				1	
海洋生物学実験Ⅱ						1			1	
海洋生物学実験Ⅲ						1			1	
海洋生物学実験Ⅳ						1			1	
環境生命化学実験						1			1	
臨海生物学実習							1集		1	
選択科目計	0	0	6	0	10	10	0	0	26	

※必修4単位の他に、「海洋学科目群」または「海洋生物学科目群」を選択し、選択した科目群で修得した18単位以上を含めて32単位以上を修得すること（必修科目は選択した科目群で修得する18単位以上には含まれない。）。

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
他学部・他学科開講科目(注1)									4	4単位

卒業科目研究	セミナー								①集	①	9単位
	卒業論文								⑧集	⑧	
	必修科目計	0	0	0	0	0	0	0	1	8	
卒業に必要な単位数（専門科目合計）										68単位	

◎表記について
○印の数字は、必修科目の単位数を表す。「集」は集中授業を表す。
●印の科目は、卒業に必要な単位に含まれない科目を表す。

○専門科目の履修について
必修4単位の他に、「海洋学科目群」または「海洋生物学科目群」を選択し、選択した科目群で修得した18単位以上を含めて32単位以上を修得すること（必修科目は選択した科目群で修得する18単位以上には含まれない。）。

○他学部・他学科開講科目の履修について
（注1）「他学部・他学科開講科目」は、海洋生命科学部及び海洋工学部の専門科目、本学部の他学科の専門科目（卒業論文及びセミナーを除く。）及び基礎科目グローバル・キャリア関連科目（選択）の中から選択し、必要な単位を修得すること。なお、他学部・他学科に開講されている●印の科目は算入されない。

○3年次進級要件
第2年次末までに、下記の単位を含め、卒業に必要な単位を70単位以上修得しなければ、3年次へ進級することができない。
1. 総合科目14単位以上（「フレッシュマンセミナー」を含むこと。）
2. 基礎科目20単位以上（必修科目及び「TOEIC入門」を含むこと。ただし、「TOEIC演習」の修得単位は含まない。）
3. 専門科目の基礎専門科目10単位以上
なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入されない。

○4年次進級要件
第3年次末までに、総合科目外国語系の単位8単位以上及び基礎科目グローバル・キャリア関連科目の「TOEIC演習」の単位を含め、卒業に必要な単位を104単位以上修得しなければ第4年次へ進級することができない。
なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入されない。

○卒業論文・セミナー履修要件
第4年次進級要件を満たさない学生は卒業論文及びセミナーの履修はできない。

○海洋科学専攻科進学について
学部卒業後、海洋科学専攻科に進学し、三級海技士（航海）の資格の取得を希望する学生は、履修ガイド「海技士の免許」を確認し、必要な単位を修得すること。

専門科目 [海洋資源エネルギー学科]

授業科目	年次及び単位数										卒業必要単位数
	1年		2年		3年		4年		計		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
物理学概論Ⅰ		②								②	27単位
物理学概論Ⅱ			②							②	
基礎工学Ⅰ				②						②	
基礎工学Ⅱ				②						②	
General Engineering				②						②	
Natural Sciences			②							②	
化学概論Ⅰ		2								2	
生物学概論Ⅰ		2								2	
地球科学概論Ⅰ		2								2	
化学概論Ⅱ			2							2	
生物学概論Ⅱ				2						2	
地球科学概論Ⅱ				2						2	
データサイエンス				2						2	
数値モデリング					2					2	
数値モデリング演習						1				1	
分析化学			2							2	
基礎工学Ⅲ					2					2	
電気電子工学					2					2	
●職業指導						1				1	
●水産科教育法Ⅰ					2					2	
●水産科教育法Ⅱ					2					2	
●理科教育法Ⅰ			2							2	
●理科教育法Ⅱ				2						2	
●理科教育法Ⅲ					2					2	
●理科教育法Ⅳ						2				2	
基礎専門科目計	0	8	10	14	8	8	0	0	0	48	

物理海洋学Ⅰ						2				2	26単位 ※
海底科学Ⅰ				2						2	
海底科学Ⅱ					2					2	
海洋政策学						2				2	
環境アセスメント論						2				2	
海域連携利用論					2					2	
海洋資源環境キャリア実習Ⅰ				1集						1	
海洋資源環境キャリア実習Ⅱ					1集					1	
海洋資源エネルギー学実習Ⅰ			1集							1	
海洋資源エネルギー学実習Ⅱ					1集					1	
海洋自然エネルギー学						2				2	
海洋エネルギー工学Ⅰ						2				2	
海洋エネルギー工学Ⅱ							2			2	
Marine Resource and Energy							②			②	
乗船実習Ⅰ				1集						1	
乗船実習Ⅱ					3集					3	
乗船実習Ⅲ							3集			3	
●乗船実習Ⅳ								9集		9	
●水産海洋概論Ⅰ		2								2	
●水産海洋概論Ⅱ			2							2	
専門科目計	2	2	1	3	13	10	4	9	44		
海洋資源地球化学					2					2	
海洋地盤工学					2					2	
海洋資源工学Ⅰ					2					2	
海洋資源工学Ⅱ						2				2	
海洋資源工学Ⅲ						2				2	
海洋開発学実験					1					1	
海洋開発学研究の最前線						2				2	
選択科目計	0	0	0	0	6	7	0	0	13		
海洋計測学						2				2	
海上安全工学						2				2	
海洋音響学					2					2	
沿岸工学					2					2	
応用情報学						2				2	
応用海洋工学実験					1					1	
応用海洋工学研究の最前線						2				2	
選択科目計	0	0	0	0	4	9	0	0	13		

※必修2単位の他に、「海洋開発学科目群」または「応用海洋工学科目群」を選択し、選択した科目群で修得した9単位以上を含めて26単位以上を修得すること。

授業科目	年次及び単位数										卒業必要単位数
	1年		2年		3年		4年		計		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
他学部・他学科開講科目(注1)										4	4単位

卒業研究科目											卒業必要単位数	
セミナー									①集	①		9単位
卒業論文									⑧集	⑧		
必修科目計	0	0	0	0	0	0	0	1	8	9		
卒業に必要な単位数(専門科目合計)											68単位	

◎表記について
 ○印の数字は、必修科目の単位数を表す。「集」は集中授業を表す。
 ●印の科目は、卒業に必要な単位に含まれない科目を表す。

◎専門科目の履修について
 必修2単位の他に、「海洋開発学科目群」または「応用海洋工学科目群」を選択し、選択した科目群で修得した9単位以上を含めて26単位以上を修得すること。

◎他学部・他学科開講科目の履修について
 (注1)「他学部・他学科開講科目」は、海洋生命科学部及び海洋工学部の専門科目、本学部の他学科の専門科目(卒業論文及びセミナーを除く。)及び基礎科目グローバル・キャリア関連科目(選択)の中から選択し、必要な単位を修得すること。なお、他学部・他学科に開講されている●印の科目は算入されない。

◎3年次進級要件
 第2年次末までに、下記の単位を含め、卒業に必要な単位を70単位以上修得しなければ、3年次へ進級することができない。
 1. 総合科目14単位以上(「フレッシュマンセミナー」を含むこと。)
 2. 基礎科目20単位以上(必修科目及び「TOEIC入門」を含むこと。ただし、「TOEIC演習」の修得単位は含まない。)
 3. 専門科目の基礎専門科目10単位以上
 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入されない。

◎4年次進級要件
 第3年次末までに、総合科目外国語系の単位8単位以上及び基礎科目グローバル・キャリア関連科目の「TOEIC演習」の単位を含め、卒業に必要な単位を104単位以上修得しなければ第4年次へ進級することができない。
 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入されない。

◎卒業論文・セミナー履修要件
 第4年次進級要件を満たさない学生は卒業論文及びセミナーの履修はできない。

◎海洋科学専攻科進学について
 学部卒業後、海洋科学専攻科に進学し、三級海技士(航海)の資格の取得を希望する学生は、履修ガイド「海技士の免許」を確認し、必要な単位を修得すること。

2. 進級要件

第3年次及び第4年次へ進級するためには次の要件を満たさなければなりません。
なお、年度途中での進級はありません。

(1) 第3年次への進級要件

第3年次へ進級するためには、第2年次終了時まで、学科により定められた次表の単位を含み、卒業に必要な単位を70単位以上修得しなければなりません。

各学科の第3年次への進級に必要な単位数【海洋資源環境学部 各学科】

学 科		海洋環境科学科		海洋資源エネルギー学 科	
		授業科目の区分			
総合 科目	共通導入科目	14単位 フレッシュマンセミナー(1単位)を含む			
	文化学系				
	哲学・科学論系				
	社会科学系				
	健康・スポーツ系				
	外国語系				
	自由選択				
総合科目計		14単位			
基礎 科目	必修	20単位 基礎科目の必修科目及び TOEIC入門(1単位)を含む。 TOEIC演習(1単位)を含まない。			
	選択				
	グローバル・ キャリア 関連科目				
基礎科目計		20単位			
専門 科目	基礎専門科目	必修	10単位		
		選択			
	必修				
					選択
他学部・他学科等 開講科目					
専門科目計		10単位			
その他 「総合科目」、「基礎科目」 「専門科目」から修得		26単位			
合計 (第3年次への進級 に必要な単位数)		70単位			

※「基礎科目」の「グローバル・キャリア関連科目」の「選択科目」は、「専門科目」の「他学部・他学科等開講科目」の単位数に含まれます。

(2) 第4年次への進級要件

第4年次へ進級するためには、第3年次終了時まで、総合科目外国語系の単位8単位以上、「基礎科目」の「TOEIC演習」を含め、卒業に必要な単位を104単位以上修得しなければなりません。

※注意:第4年次への進級要件の一つである「TOEIC演習」の単位修得には、TOEIC600点以上のスコアが必要となります。(単位修得の条件は「大学以外の教育施設等における学修」のページを参照してください)

(3) 「卒業に必要な単位」には、各授業科目区分ごとの卒業要件単位を超えて修得した単位は算入されません。したがって総修得単位が進級基準単位数を上回っていても進級基準に達しないということもありますので、十分注意してください。

以下、海洋環境科学科の平成29年度入学者に適用される各科目区分ごとの卒業要件単位数を例に、総修得単位数が「進級要件」を超えているにもかかわらず、進級できないケースを説明します。

ケース1 修得単位数が授業科目区分ごとの進級要件単位数に達しないケース【例：海洋環境科学科】

授業科目の区分		学 科	卒業要件単位数	修得単位数	対象外単位	進級要件に算入される単位数
総合科目	共通導入科目		8	8		8
	文化学系		4	2		2
	哲学・科学論系		4	6	(2)	4
	社会科学系		4	4		4
	健康・スポーツ系		2	4	(2)	2
	外国語系		8	2		2
	自由選択		4	(4)		4
計			34	26	0	26
基礎科目	必修		12	12		12
	選択		8	6		6
	グローバル・キャリア関連科目	必修	2	1		1
	計		22	19	0	<u>19</u>
専門科目	基礎専門科目	必修	2	2		2
		選択	17	16		16
	必修		4	2		2
	選択		32	6		6
	卒業研究科目		9	0		0
	他学部・他学科等開講科目		4	4		4
	(グローバル・キャリア関連科目・選択科目含む)			2	2	4
計			68	32	2	30
合 計			124	77	2	75

1単位不足

○上記の表では、進級基準に算入される単位数75単位を修得し、進級要件単位数の「70単位以上」を修得していますが、「基礎科目」の「グローバル・キャリア関連科目」の「選択科目」の2単位が「専門科目」の「他学部・他学科等開講科目」に算入されたことにより、「基礎科目」の授業科目区分で必要な「20単位以上」を満たしていないので、3年次に進級できないということになります。

ケース2 進級要件に算入される単位数が進級要件単位数に達しないケース【例：海洋環境科学科】

授業科目の区分		学 科	卒業要件単位数	修得単位数	対象外単位	進級要件に算入される単位数
総合科目	共通導入科目		8	8		8
	文化学系		4	2		2
	哲学・科学論系		4	8	(4)	4
	社会科学系		4	2		2
	健康・スポーツ系		2	4	(2)	2
	外国語系		8	2		2
	自由選択		4	(6)	2	4
計			34	26	2	24
基礎科目	必修		12	12		12
	選択		8	10	2	8
	グローバル・キャリア関連科目	必修	2	2		2
	計		22	24	2	22
専門科目	基礎専門科目	必修	2	2		2
		選択	17	12		12
	必修		4	2		2
	選択		32	4		4
	卒業研究科目		9	0		0
	他学部・他学科等開講科目		4	0		0
	(グローバル・キャリア関連科目・選択科目含む)			0		0
計			68	20		20
合 計			124	70	4	<u>66</u>

4単位不足

○進級要件に算入される「卒業に必要な単位」には、各授業科目区分ごとの卒業要件単位を超えて修得した単位（オーバー単位）は、算入されません。

○上の「ケース2」では、「総合科目」の「哲学・科学論系」と「健康・スポーツ系」で授業科目区分ごとの卒業要件単位を超えて修得した単位(4+2=6単位)が「自由選択」の単位に算入されますが、「自由選択」の卒業要件単位は4単位なので、2単位がオーバー単位となり、進級要件単位数には算入されません。また、「基礎科目」の「選択科目」の授業科目区分も卒業要件の8単位を超えて10単位を修得しているため、2単位がオーバー単位となり、卒業・進級要件単位数には算入されません。つまり70単位を修得しているにもかかわらず、4単位がオーバー単位のため、進級要件単位数に算入される単位の合計は66単位となります。従って進級要件単位数に4単位不足し、3年次に進級できないということになります。

3. 修業年限及び在学年限

(1) 修業年限

所定の修業年限は4年です。

(2) 在学年限

最長在学年限は次に定める期間（休学期間を除く）です。この年限内に進級又は卒業することができない者は学則の定めるところにより除籍されます。

- 一. 第1年次から第2年次まで 4年
- 二. 第3年次から第4年次まで 4年

4. 早期卒業

本学部に3年以上在学したものが、卒業の要件として定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、第3年次終了をもって卒業を認める制度があります。

希望者は第2年次及び第3年次当初に、早期卒業を希望する旨を所定の様式により成績証明書を添えて教務課に申請してください。早期卒業が認められるためには次の要件が必要です。

- ① 次のいずれかに該当すること
 - ・ 成績評価数の95%以上（小数点第一位切上げ）が「A」以上であり、かつ成績の評価で不合格科目がないこと
 - ・ GPAの累積が3.5以上であること。
- ② ①の要件が第1年次、第2年次及び第3年次の学年ごとに満たされていること
- ③ 卒業後直ちに教員免許状及び学芸員資格の取得及び専攻科入学（補充入学を含む。）を希望する者でないこと
また、再入学、転学部、転学科した者でないこと

休学をした場合、学年途中又は学年終了時にこの要件を欠くに至った場合は、早期卒業の対象から除外します。第2年次において、この要件を満たす者には、前学期及び後学期にそれぞれ30単位までの履修登録を認めます。第2年次終了時点でこの要件及び履修規則第19条に定める第4年次への進級の要件を満たした場合には、第3年次において卒業論文及びセミナーの履修を認めます。

【学則第20条、第21条、第42条・履修規則第5条、第20条、第21条・早期卒業認定基準】

5. 卒業の時期

毎学年の3月下旬とします。

ただし、本学部に4年以上在学（休学期間を除く。）し、前学期開設授業科目の単位を取得することにより卒業要件を充足した場合には、前学期末（9月）に卒業となります。この場合、後学期末（3月）まで卒業を延期することはできませんので、該当する可能性のある学生は注意してください。

6. 学位の授与

卒業をした者には、学士（海洋科学）の学位を授与します。

【学則第42条、43条・学位規則第3条、第22条】

〔10〕 再 入 学

本学を学則第52条の規定により退学した者及び学則第54条第4号の規定により除籍された者が再入学を願いだしたときは、選考の上、これを許可することがあります。

ただし以下の学生は除く。

- ・ 入学金未納により除籍された学生。
- ・ 懲戒処分として退学となった学生。
- ・ 無期停学が解除される前に退学・除籍となった学生。
- ・ 再入学を許可されても、成業の見込みがないと認められる学生。

1. 入学資格

再入学できる者は、退学または除籍となった日から3年以内である者。

2. 入学の時期

再入学の時期は、学年または学期の始めになります。詳細は教務課教務係に問い合わせてください。

〔11〕 外国人留学生の授業科目履修上の特例

授業科目履修上の特例として、外国人留学生（大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学部に入学者）のために次の「1」のとおり、日本語科目、日本事情科目及び日本海洋水産事情の授業科目が開講されています。

外国人留学生は、履修規則第4条の規定にかかわらず、次の「2」及び「3」のとおりこの科目の履修をもって履修規則に定める科目に代えることができます。

1 日本語科目等の開講年次及び単位数

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数				計
	1年次	2年次	3年次	4年次	
日 本 語 科 目					
総合日本語Ⅰ	1				1
総合日本語Ⅱ	1				1
総合日本語Ⅲ	1				1
総合日本語Ⅳ	1				1
応用日本語Ⅰ		1			1
応用日本語Ⅱ		1			1
論文のための日本語Ⅰ			1		1
論文のための日本語Ⅱ			1		1
日 本 事 情 科 目					
日本事情Ⅰ	2				2
日本事情Ⅱ	2				2
日本事情Ⅲ		2			2
日本事情Ⅳ		2			2
日 本 海 洋 水 産 事 情 科 目					
日本水産事情		2			2
日本海洋事情		2			2
合 計	8	10	2		20

2 総合科目

総 合 科 目	外 国 人 留 学 生 代 替 科 目	
文 化 学 系	4	日 本 事 情 科 目
哲 学 ・ 科 学 論 系	4	
社 会 科 学 系	4	
外 国 語 系	8	日 本 語 科 目
自 由 選 択	4	日 本 語 科 目

3 専 門 科 目

専 門 科 目	外国人留学生代替科目
専門科目の選択科目	4
	日本水産事情 2 日本海洋事情 2

〔12〕 学部学生の大学院授業科目の先行履修

本学の学部4年次に在籍する学生は、本学大学院海洋科学技術研究科博士前期課程(以下「大学院」という。)の授業科目を先行して履修(以下「先行履修」という。)することができます。

- ① 次の各項に該当する学生が、先行履修することができます。
 - (1) 先行履修させることが教育上有益であり卒業論文等の修学に支障がないと指導教員が認めた学生
 - (2) 先行履修を希望する大学院授業科目の担当教員が履修可能と認め、履修の内諾を得た学生
- ② 履修申請手続き
先行履修許可願を所定の期日までに学務部教務課大学院係へ提出してください。
- ③ 履修申請単位数
先行履修できる単位数は、**6単位以内**となります。
- ④ 修得した単位
学部の成績表には記載されますが、**学部の卒業に必要な単位には算入しない**ので注意してください。
- ⑤ 大学院での単位認定
先行履修により修得した単位は、学生が大学院に入学し、所定の手続きを経た場合に、大学院において修得したものとみなし、単位認定されます。
なお、授業科目の成績評価は、先行履修により得た成績評価で記載されます。

学 修 の 手 引 き

(Ⅱ. 本学以外の学修)

- 〔1〕 放送大学の授業科目履修
- 〔2〕 大学以外の教育施設等における学修
- 〔3〕 他大学の公開授業科目の履修
- 〔4〕 既修得単位の認定

〔1〕放送大学の授業科目履修

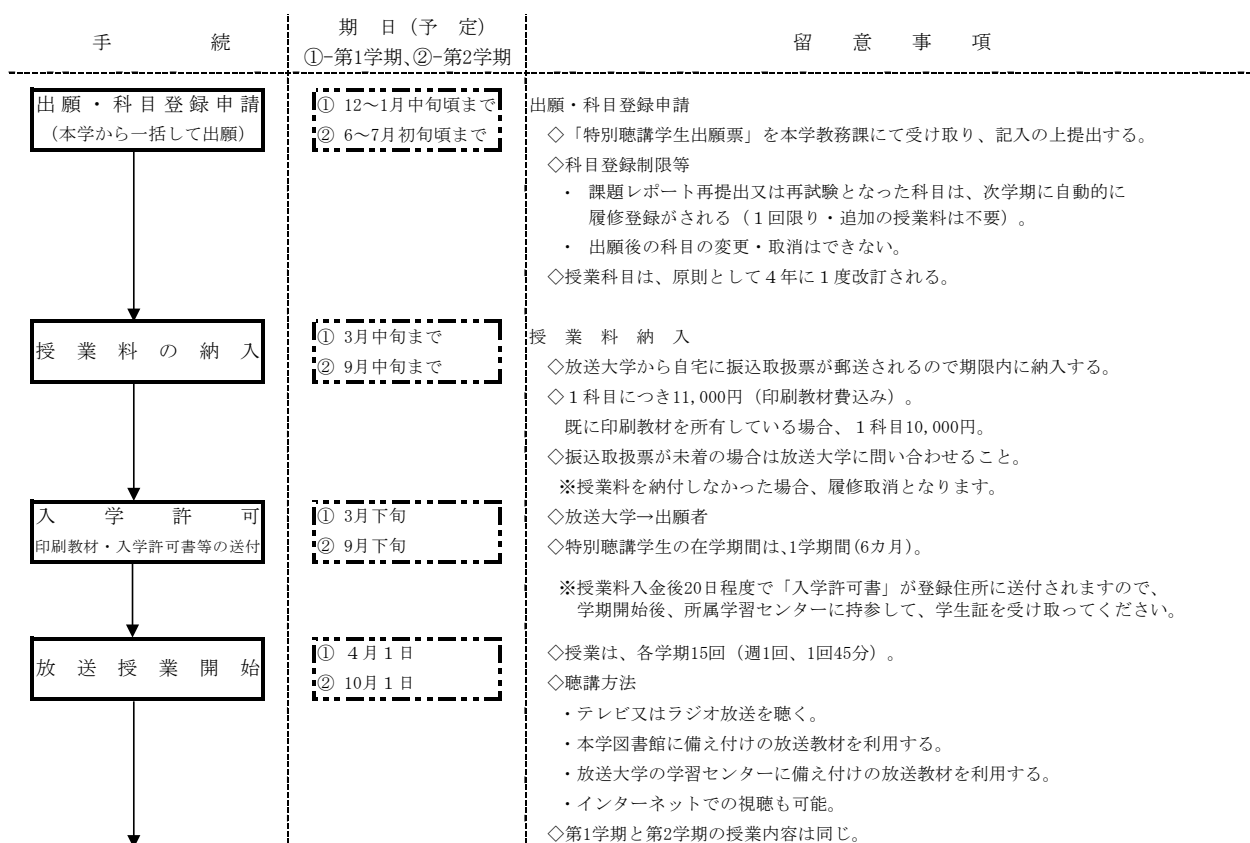
放送大学の「特別聴講学生」となって講義を受講し、単位を修得すれば、本学部で指定した科目に限り、4単位まで卒業に必要な単位として認定されます（本学を通して申し込む必要があります）。詳細は以下のとおりです。

（1）区分・指定科目・単位・時間等

区 分	本学での科目名	放送大学での指定科目	単位	放 送 時 間
外国語科目	韓国語Ⅰ	韓国語Ⅰ	2	授業科目案内 または放送大学 ホームページを 参照
	韓国語Ⅱ	韓国語Ⅱ	2	

- （2）履修期間 半年間（第一学期・・・4月1日～9月30日、第二学期・・・10月1日～3月31日）
（第一学期と第二学期の授業内容は同じ）
- （3）受講資格 1～3年次生
- （4）授業料 1科目 11,000円（放送大学の定めるところによります。）
- （5）申込方法 教務課窓口で出願用紙に記入し提出してください。
- （6）受付期間 6月及び12月（放送大学のスケジュールが決定次第、掲示によりお知らせします。）
- （7）その他 指定科目・授業内容等は年度により変更もあるので、掲示や配付資料等で確認してください。
試験に合格しなかった科目又は課題レポート再提出となった科目は、次学期に自動的に履修登録されます。（1回限り・追加の授業料は不要）。履修登録を削除したい場合は、別途定める所定の期間内に申し出てください。詳細は掲示により周知します。

○ 学修システム（出願から単位認定まで）



手 続	期 日 ①-第1学期、②-第2学期	留 意 事 項
通信指導課題（レポート課題）の送付	① 5月上旬 ② 11月上旬	◇放送大学→履修者 ◇通信指導課題は、各学期第8回までの放送授業及びそれに対応する印刷教材の範囲から出願される。
課題レポートの提出	①②放送大学の指定日まで	◇履修者→放送大学 ◇提出期限までに放送大学に 必着 のこと。 期限後に到着しても未提出扱いとなるので注意すること。
課題レポートの返送	① 7月中旬 ② 1月中旬	◇放送大学→履修者
通信指導合否通知 単位認定試験通知（受験票）	① 7月中旬 ② 1月中旬	◇通信指導の合否結果は、「単位認定試験通知（受験票）」により通知する。 ◇通信指導に合格しなかった科目は、課題レポート再提出科目となり、次学期に自動的に履修登録がされる（1回限り・追加の授業料は不要）。 ◇課題レポートの再提出については、課題が次学期に放送大学から自動的に送付されるので、手続き不要。
放 送 授 業 終 了	① 7月下旬 ② 1月下旬	
単 位 認 定 試 験	① 7月下旬 ② 1月下旬	◇単位認定試験場は、原則として所属学習センターまたはサテライトスペース。 ◇本学の学生（受験者）が50人を超える場合は、本学で実施。 ◇試験に合格しなかった科目は、再試験科目となるため次学期に自動的に履修登録される（1回限り・追加の授業料は不要）。 ◇再試験については自動的に再試験受験資格者となり、次学期に受験票が送付されるので、手続き不要（課題レポート提出も不要）。 ◇課題レポート再提出又は再試験となる科目と新規登録予定科目の試験日程に注意する。
成 績 通 知	① 9月上旬 ② 3月中旬	◇放送大学→履修者、本学教務課
本学での単位認定	① 10月下旬まで ② 3月下旬まで	◇所定の方法により、本学教務課において学業成績証明書に評価を記載する。

注：放送大学の授業（単位認定試験）と本学の授業（講義・実験・実習・試験等）が日程上重複することがある。
その場合、各自においていずれかを選択しなければならないので、充分留意の上、出願すること。

【放送大学単位互換取扱要領第4、第7、第8、第10、第11】

〔2〕 大学以外の教育施設等における学修

本学部では、文部科学大臣が定める学修を本学部における授業科目の履修とみなして、次のとおり単位を与えることとしています。

1. 文部科学大臣が定める学修

認定する資格	授業科目	単位数	成績の評価及び評価点	
実用英語技能検定 1級 又は TOEFL (iBT)95点以上 又は IELTSバンド7.0 以上	総合科目	Basic English I	1	A+(100点)
		Basic English II	1	
		Practical English I	1	
		Practical English II	1	
		Effective English I	1	
		Effective English II	1	
実用英語技能検定 準1級 又は TOEFL (iBT) 72点～94点又は IELTSバンド5.5～6.5	総合科目	Basic English I	1	
		Basic English II	1	
実用英語技能検定 1級 又は TOEIC Listening & Reading Test 600点以上 又は TOEFL (iBT) 72点以上 又は IELTSバンド5.5 以上	基礎科目	TOEIC入門	1	
		TOEIC演習	1	

※「TOEIC Listening & Reading Test (以下「TOEIC L&R」という。) 600点以上」は、学則第36条の規定にかかわらず、本学入学後に受験したTOEIC L&R (公開テスト又は学内で実施したIPテスト) のスコアに限るものとする。ただし、編入学生については、本学入学前2年以内に受験した公開テストのスコアに限り、認めることとする。

2. 単位認定の申請

単位の認定を受けようとする者は、「単位認定願 (様式は教務課窓口にあります。)」にスコアカード又は合格証明書を添えて、教務課に提出してください。ただし、単位修得済みの授業科目の場合は、申請できません。

申請期限

資格に有効期限が付されていない場合は資格のスコアカード又は合格証明書に記載された資格の認定日 (資格の認定日が記載されていない場合は資格の受験日) から2年以内に、資格に有効期限が付されている場合は資格の有効期限までに、それぞれ申請を行うものとする。

- (1) 入学前に資格を取得した場合…第1年次 (編入学生については3年次) 前学期の履修登録期間内で別に定める期日まで
 (2) 在学中に資格を取得した場合 ((3) による場合を除く)

…取得後、認定を受けようとする学期の履修登録開始の前日まで

ただし、「TOEIC演習」については、当該学期の履修登録開始日以後であっても、履修登録がされていない場合に限り、別に定める期日まで申請を認めるものとする。

- (3) 4月のオリエンテーションで実施されたTOEIC L&R (学内で実施するIPテスト) で資格を取得した場合

…資格を取得した年次における前学期履修登録期間内で別に定める期日まで

ただし、止むを得ない理由により当該期日までに申請が出来なかった場合には、認定を受けようとする学期の履修登録開始の前日まで申請を認めるものとする。

【大学以外の学修取扱要領第2、第3、第4、第5】

〔3〕 他大学の公開授業科目の履修

学生は、本学部の授業に差し支えない範囲で、他の大学で開講する公開授業科目を履修することができます。

1. 履修の申請

公開授業科目を履修しようとする者は、あらかじめ学生支援教員の推薦を得た「推薦依頼書」に特別聴講学生願書を添えて教務課に提出してください。

2. 単位の認定

前項の願い出により履修を許可された科目について、単位認定を希望する場合は、審査のうえ他学部・他学科等開講科目として単位を認定します。

成績評価は「認」の表示がされます。

【公開授業科目取扱要領第4、第5、第6】

〔4〕 既修得単位の認定

本学部の第1年次に入学する前に、大学又は短期大学において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）及び短期大学又は高等専門学校専攻科において修得した単位（以下「既修得単位」という。）は、59単位を超えない範囲で次のとおり認定されることがあります。なお、本学の他の制度により認定された単位数を含めて60単位が上限となります。基礎科目「TOEIC演習」（1単位）の認定は、学則第36条の規定にかかわらず、本学入学後に受験したTOEIC L&R（公開テスト又は学内で実施したIPテスト）のスコアにより認定されます。なお、編入学生は本学入学前2年以内の公開テストのスコアも認定可能です。

1. 認定できる単位

別表

授業科目の区分		既修得の単位として 認定する単位数の上限
総合科目	共通導入科目	8
	文化学系	4
	哲学・科学論系	4
	社会科学系	4
	健康・スポーツ系	2
	外国語系	8
	自由選択	4
基礎科目（「TOEIC演習」の単位数を除く）		
専門科目	基礎専門科目	
	他学部他学科等開講科目	
合計		59

※総合科目の自由選択については、総合科目の各系の開講科目により認定する。

※他の大学等における授業科目により認定される単位数、文部科学大臣が定める学修により認定される総合科目の英語科目及び基礎科目のうち「TOEIC入門」の単位数がある場合は、上限単位数を59単位から減ずる。

2. 単位認定の申請

既修得単位の認定を受けようとする者は、所属学科の学生支援教員による指導・助言を受けた後、別紙様式による「既修得単位認定願」に成績証明書及び授業内容を明らかにする資料を添えて教務課に提出してください。

申請期限：第1年次前学期の履修登録期間内で別に定める日まで

3. 単位の認定

成績評価は「認」の表示がされます。

【既修得単位取扱要領】

学 修 の 手 引 き

(Ⅲ. 資格取得に関する学修〔1〕)

〔1〕. 法 定 資 格

- 〔1〕 教育職員免許
- 〔2〕 学芸員
- 〔3〕 技術士補
- 〔4〕 海技士の免許
- 〔5〕 第一級海上特殊無線技士
- 〔6〕 船舶衛生管理者

〔1〕 教育職員免許

1. 教育職員免許状の取得方法

教育職員免許状は、教育職員免許法・同法施行規則に基づき本学部の各学科、課程に認定されている免許教科ごとに取得することができます。

教育職員免許状を取得しようとする学生は、まず取得しようとする免許教科の種類に応じて関係法規に定められている修得すべき科目・単位数の基準（最低基準）により、本学部における関連規定（教科及び教職に関する科目の指定）等を参照し、教育職員免許状取得に必要な単位を修得するよう履修計画をたてる必要があります。

在学中に教育職員免許の資格を取得した学生は、次の方法により教育職員免許状を取得できます。

一括事前申請

資格要件を満たす学生で4年次の4月に一括事前申請の希望届を提出し、所定の申請手数料を納付した学生については、教務課が一括して東京都教育委員会に申請します。この場合は、卒業と同時に教育職員免許状の授与を受けることができます（卒業後に教職に就く予定がある場合は、必ず申請してください）。

個人申請

大学の一括事前申請をしなかった学生は、卒業後に個人で居住地、又は就職先の学校のある都道府県教育委員会に直接申請を行うこととなります。

2. 学部、専攻科及び大学院において取得できる教育職員免許状の種類

（平成29年度学部入学者から適用）

学 部 等	学科・専攻等	免許状の種類	免許教科
海洋資源環境学部	海洋環境科学科	中学校教諭1種免許状	理科
	海洋資源エネルギー学科	高等学校教諭1種免許状	理科、水産
海洋科学専攻科	海洋船舶運航システム学専攻	高等学校教諭専修免許状	水 産
大 学 院 海洋科学技術研究科	海洋生命資源科学専攻 食機能保全科学専攻 海洋資源環境学専攻	中学校専修免許状 高等学校教諭専修免許状	理科 理科、水産
	海洋管理政策学専攻	中学校専修免許状 高等学校教諭専修免許状	理 科
	食品流通安全管理専攻	中学校専修免許状 高等学校教諭専修免許状	理 科

（注）専修免許状については、海洋生命科学部又は海洋資源環境学部を卒業後、専攻科又は大学院において所定の単位を取得した上で修了した場合、取得が可能となります。専修免許状は、所持（見込みを含む）している一種免許状の学校種・免許教科となります。

3. 教育職員免許状取得に必要な基礎資格及び科目・単位数の基準

教育職員免許法・同法施行規則から、本学部学生に適用される部分を参照、解説すれば次のとおりです。

所要資格		基礎資格	文部科学省令で定める科目（単位）	教育の基礎的理 解に関する科目 等 （単位）	教科及び教科 の指導法に関 する科目（単 位）	大学が独自に設 定する科目 （単位）
免許状の種類						
中学校教諭	1種免許状	学士の学位を有する	8	27	36	
高等学校教諭	専修免許状	修士の学位を有する	8	23	36	24
		大学の専攻科に1年以上在学し30単位以上を修得				
	1種免許状	学士の学位を有する	8	23	36	

4. 文部科学省令で定める科目・教育の基礎的理解に関する科目等・教科及び教科の指導法に関する科目

文部科学省令で定める科目（8単位）、教育の基礎的理解に関する科目等（中免27単位、高免23単位）、教科及び教科の指導法に関する科目（36単位）は、教育職員免許法施行規則により、免許教科・免許の種類ごとに次のとおり規定されています。

この規定科目に対応する本学の授業科目で文部科学省令で定める科目、教育の基礎的理解に関する科目等、教科及び教科の指導法に関する科目は次のとおりです。

(1) 文部科学省令で定める科目の修得規定科目

文部科学省令で定める科目の区分（規定科目）	対応する本学部の授業科目	最低修得単位数
日本国憲法	日本国憲法	2単位
体育	スポーツⅠ・スポーツⅡ	2単位
外国語コミュニケーション	TOEIC入門・TOEIC演習	2単位
数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	情報リテラシー	2単位

(2) 教育の基礎的理解に関する科目等の修得規定科目

① 中学校教諭1種免許状（理科）

	教育の基礎的理解に関する科目等の区分（規定科目）	対応する本学部の授業科目(学年)	単位	最低修得単位数	
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理 教育思想史	1 2	10
		・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職概論	2	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育行政論	1	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	1	
		・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育概論	1	
		・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	2	
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	道徳教育指導論※	2	10
		・総合的な学習の時間の指導法 ・特別活動の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	
		・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法学（ICT活用含む）	2	
		・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導（進路指導）	2	
		・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2	
第五欄	教育実践に関する科目	・教育実習	教育実習指導 教育実習Ⅱ	1 4	5
		・教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2	

・中学校教諭1種免許状の取得には、上記教育の基礎的理解に関する科目等の単位の修得に加え、社会福祉施設等で、原則、7日間の介護等体験が必要。

※印の科目について、海洋生命科学部の学生は履修不可。

①高等学校教諭1種免許状（理科・水産）

	教育の基礎的理解に関する科目等の区分（規定科目）		対応する本学部の 授業科目(学年)	単位	最低修得 単位数	
第三欄	教育の基礎的理解 に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する 歴史及び思想	教育原理	1	10	23
			教育思想史	2		
		・教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	教職概論	2		
			・教育に関する社会的、制度的又は経営 的事項（学校と地域との連携及び学校安全 への対応を含む。)	教育行政論		
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び 学習の過程	教育心理学	1		
		・特別の支援を必要とする幼児、児童及 び生徒に対する理解	特別支援教育概 論	1		
・教育課程の意義及び編成の方法（カリ キュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2				
第四欄	道徳、総合的な学 習の時間等の指導 法及び生徒指導、 教育相談等に関す る科目	・総合的な学習の時間の指導法 ・特別活動の指導法	特別活動及び総 合的な学習の時 間の指導法	2	8	
			・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法学 (ICT活用含む)		2
		・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導(進路 指導)	2		
			・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な 知識を含む。）の理論及び方法	教育相談		2
第五欄	教育実践に関する 科目	・教育実習	教育実習指導	1	3	
			教育実習Ⅰ※	2		
			教育実習Ⅱ※	4		
		・教職実践演習	教職実践演習 (中・高)	2	2	

※教育実習は、実習時間に応じて単位が付与される。（実習時間 60時間：「教育実習Ⅰ」2単位、
120時間：「教育実習Ⅱ」4単位）

(注) 教育実習履修要件：

2年次終了時点で3年次への進級の要件を満たしていること、および教育の基礎的理解に関する科目を7単位以上
修得していること。

また、2年次の所定の時期に、教員免許状取得の動機などについてしかるべきレポート（詳細は担当教員
が指定）を提出すること（期限までに提出のないときは履修を認めない）。

(3) 教科及び教科の指導法に関する科目の修得規定科目

免許教科	免許種類	教科及び教科の指導法に関 する科目	単位	教科及び教科の指導法に関する科目	単位	最低修得単位数
理 科	中学校 1種免許 状	物理学	2	物理学実験(コンピュータ活用を含む)	1	36単位
		化学	2	化学実験(コンピュータ活用を含む)	1	
		生物学	2	生物学実験(コンピュータ活用を含む)	1	
		地学	2	地学実験(コンピュータ活用を含む)	1	
		理科教育法Ⅰ	2	理科教育法Ⅱ	2	
		理科教育法Ⅲ	2	理科教育法Ⅳ	2	
		その他理科の関係科目			16	
	高等学校 1種免許 状	物理学		2	36単位	
		化学		2		
		生物学		2		
		地学		2		
		上記科目の実験(コンピュータ活用を含む)		1		
		理科教育法Ⅰ		2		
		理科教育法Ⅱ		2		
その他理科の関係科目			23			
水 産	高等学校 1種免許 状	水産の関係科目		31	36単位	
		職業指導		1		
		水産科教育法Ⅰ		2		
		水産科教育法Ⅱ		2		

5. 教科及び教科の指導法に関する科目に対応する本学部の開講科目

海 洋 環 境 科 学 科

○ 免許教科 水産（高等学校1種）

規定科目	対応する本学部の授業科目						必要修得単位数
	科目名	学年	単位	科目名	学年	単位	
水産の 関係 科目	※●水産海洋概論Ⅰ*	1年	2	環境動態学Ⅰ	2年	2	31 単位
	※●水産海洋概論Ⅱ*	1年	2	環境動態学Ⅱ	3年	2	
	数値モデリング	3年	2	環境情報解析学Ⅱ	3年	2	
	数値モデリング演習	3年	1	海洋学実習Ⅰ	2年	1	
	海底科学Ⅰ	2年	2	海洋学実習Ⅱ	3年	1	
	海洋政策学	3年	2	海事法規	2年	2	
	環境アセスメント論	3年	2	海上安全工学	3年	2	
	海洋資源環境キャリア実習Ⅰ	3年	1	電気電子工学	3年	2	
	海洋資源環境キャリア実習Ⅱ	3年	1	応用情報学	3年	2	
	環境情報解析学Ⅰ	2年	2	乗船実習Ⅰ	2年	1	
	沿岸海洋学Ⅰ	2年	2	乗船実習Ⅱ	3年	3	
	沿岸海洋学Ⅱ	3年	2	乗船実習Ⅲ	4年	3	
生物海洋学	2年	2	●乗船実習Ⅳ	4年	9		
海洋学研究の最前線	3年	2					
職業指導	※●職業指導*	3年	1			1単位	
各教科の 指導法	●水産科教育法Ⅰ	3年	2			4単位	
	●水産科教育法Ⅱ	3年	2				
合 計						36単位	

*一般的包括的な科目を含め、規定科目ごとの必要修得単位数を修得すること。
 ※水産の免許を取得するためには「水産海洋概論Ⅰ」「水産海洋概論Ⅱ」「職業指導」は必修。
 ●印の科目は、卒業に必要な単位に含まない。
 各教科の指導法については記載の科目をすべて修得すること。

○ 免許教科 理科（中学校1種）

規定科目	対応する本学部の授業科目						必要修得単位数	
	科目名	学年	単位	科目名	学年	単位		
物理学	物理学*	1年	②	物理学概論Ⅱ	2年	2	2単位	
	物理学概論Ⅰ	1年	2	物理海洋学Ⅰ	2年	2		
化学	化学*	1年	②	分析化学	2年	2	2単位	
	化学概論Ⅰ	1年	2	環境生命化学Ⅰ	3年	2		
	化学概論Ⅱ	2年	2	環境生命化学Ⅱ	3年	2		
生物学	生物学*	1年	②	海洋生物学Ⅱ	2年	2	2単位	
	生物学概論Ⅰ	1年	2	海洋生物学Ⅲ	2年	2		
	生物学概論Ⅱ	2年	2	海洋生物学Ⅳ	3年	2		
地学	地学*	1年	②	地球科学概論Ⅱ	2年	2	2単位	
	地球科学概論Ⅰ	1年	2					
実験科目※	物理学実験	物理学実験*	2年	1			1単位	
	化学実験	化学実験*	2年	1	環境生命化学実験	3年	1	1単位
	生物学実験	生物学実験*	2年	1	海洋生物学実験Ⅲ	3年	1	
	生物学実験	海洋生物学実験Ⅰ	3年	1	海洋生物学実験Ⅳ	3年	1	1単位
	生物学実験	海洋生物学実験Ⅱ	3年	1				
地学実験	地学実験*	2年	1				1単位	
各教科の指導法	●理科教育法Ⅰ	2年	2	●理科教育法Ⅱ	2年	2	8単位	
	●理科教育法Ⅲ	3年	2	●理科教育法Ⅳ	3年	2		
その他理科の教科に関する科目(記載の科目より別途選択)						16単位		
合 計						36単位		

*一般的包括的な科目を含め、規定科目ごとの必要修得単位数を修得すること。
 ※各実験科目から、それぞれ1単位以上修得が必要。
 ※他学部・他学科等開講科目として修得した海洋生命科学部の教科に関する科目については、中学校1種免許状の取得に用いることはできないので、注意すること。
 ●印の科目は、卒業に必要な単位に含まない。
 各教科の指導法については記載の科目をすべて修得すること。

○ 免許教科 理科（高等学校1種）

規定科目	対応する本学部の授業科目						必要修得単位数	
	科目名	学年	単位	科目名	学年	単位		
物理学	物理学*	1年	②	物理学概論Ⅱ	2年	2	2単位	
	物理学概論Ⅰ	1年	2	物理海洋学Ⅰ	2年	2		
化学	化学*	1年	②	分析化学	2年	2	2単位	
	化学概論Ⅰ	1年	2	環境生命化学Ⅰ	3年	2		
	化学概論Ⅱ	2年	2	環境生命化学Ⅱ	3年	2		
生物学	生物学*	1年	②	海洋生物学Ⅱ	2年	2	2単位	
	生物学概論Ⅰ	1年	2	海洋生物学Ⅲ	2年	2		
	生物学概論Ⅱ	2年	2	海洋生物学Ⅳ	3年	2		
地学	地学*	1年	②	地球科学概論Ⅱ	2年	2	2単位	
	地球科学概論Ⅰ	1年	2					
実験科目	物理学実験	物理学実験*	2年	1			1単位	
	化学実験	化学実験*	2年	1	環境生命化学実験	3年		1
	生物学実験	生物学実験*	2年	1	海洋生物学実験Ⅲ	3年		1
	生物学実験	海洋生物学実験Ⅰ	3年	1	海洋生物学実験Ⅳ	3年		1
	生物学実験	海洋生物学実験Ⅱ	3年	1				
地学実験	地学実験*	2年	1					
各教科の指導法	●理科教育法Ⅰ	2年	2				4単位	
	●理科教育法Ⅱ	2年	2					
その他理科の教科に関する科目(記載の科目より別途選択)						23単位		
合 計						36単位		

*一般的包括的な科目を含め、規定科目ごとの必要修得単位数を修得すること。
 ●印の科目は、卒業に必要な単位に含まない。
 各教科の指導法については記載の科目をすべて修得すること。

海洋資源エネルギー学科

○ 免許教科 水産 (高等学校1種)

規定科目	対応する本学部の授業科目						必要修得単位数
	科目名	学年	単位	科目名	学年	単位	
水産の 関係 科目	※●水産海洋概論Ⅰ*	1年	2	海洋自然エネルギー学	3年	2	31 単位
	※●水産海洋概論Ⅱ*	1年	2	海洋エネルギー工学Ⅰ	3年	2	
	数値モデリング	3年	2	海洋エネルギー工学Ⅱ	3年	2	
	数値モデリング演習	3年	1	海上安全工学	3年	2	
	電気電子工学	3年	2	応用情報学	3年	2	
	海底科学Ⅰ	2年	2	応用海洋工学実験	3年	1	
	海洋政策学	3年	2	応用海洋工学研究の最前線	3年	2	
	環境アセスメント論	3年	2	海事法規	2年	2	
	海洋資源環境キャリア実習Ⅰ	3年	1	乗船実習Ⅰ	2年	1	
	海洋資源環境キャリア実習Ⅱ	3年	1	乗船実習Ⅱ	3年	3	
海洋資源エネルギー学実習Ⅰ	2年	1	乗船実習Ⅲ	4年	3		
海洋資源エネルギー学実習Ⅱ	3年	1	●乗船実習Ⅳ	4年	9		
職業指導	※●職業指導*	3年	1				1単位
各教科の 指導法	●水産科教育法Ⅰ	3年	2				4単位
	●水産科教育法Ⅱ	3年	2				
合 計							36単位

*一般的包括的な科目を含め、規定科目ごとの必要修得単位数を修得すること。
 ※水産の免許を取得するためには「水産海洋概論Ⅰ」「水産海洋概論Ⅱ」「職業指導」は必修。
 ●印の科目は、卒業に必要な単位に含まない。
 各教科の指導法については記載の科目をすべて修得すること。

○ 免許教科 理科 (中学校1種)

規定科目	対応する本学部の授業科目						必要修得単位数
	科目名	学年	単位	科目名	学年	単位	
物理学	物理学*	1年	②	基礎工学Ⅰ	2年	②	2単位
	物理学概論Ⅰ	1年	②	基礎工学Ⅲ	3年	2	
	物理学概論Ⅱ	2年	②	海洋資源工学Ⅱ	3年	2	
化学	化学*	1年	②	分析化学	2年	2	2単位
	化学概論Ⅰ	1年	2	海洋資源地球化学	3年	2	
生物学	生物学*	1年	②	生物学概論Ⅱ	2年	2	2単位
	生物学概論Ⅰ	1年	2				
地学	地学*	1年	②	海洋資源工学Ⅰ	3年	2	2単位
	地球科学概論Ⅰ	1年	2	海底科学Ⅱ	3年	2	
	地球科学概論Ⅱ	2年	2	海洋地盤工学	3年	2	
実験科目 ※	物理学実験	物理学実験*	2年	1			1単位
	化学実験	化学実験*	2年	1			1単位
	生物学実験	生物学実験*	2年	1			1単位
	地学実験	地学実験*	2年	1			1単位
各教科の指導法	●理科教育法Ⅰ	2年	2	●理科教育法Ⅱ	2年	2	8単位
	●理科教育法Ⅲ	3年	2	●理科教育法Ⅳ	3年	2	
その他理科の教科に関する科目(記載の科目より別途選択)							16単位
合 計							36単位

*一般的包括的な科目を含め、規定科目ごとの必要修得単位数を修得すること。
 ※各実験科目から、それぞれ1単位以上修得が必要。
 ※他学部・他学科等開講科目として修得した海洋生命科学部の教科に関する科目については、中学校1種免許状の取得に用いることはできないので、
 注意すること。
 ●印の科目は、卒業に必要な単位に含まない。
 各教科の指導法については記載の科目をすべて修得すること。

○ 免許教科 理科 (高等学校1種)

規定科目	対応する本学部の授業科目						必要修得単位数
	科目名	学年	単位	科目名	学年	単位	
物理学	物理学*	1年	②	基礎工学Ⅰ	2年	②	2単位
	物理学概論Ⅰ	1年	②	基礎工学Ⅲ	3年	2	
	物理学概論Ⅱ	2年	②	海洋資源工学Ⅱ	3年	2	
化学	化学*	1年	②	分析化学	2年	2	2単位
	化学概論Ⅰ	1年	2	海洋資源地球化学	3年	2	
生物学	生物学*	1年	②	生物学概論Ⅱ	2年	2	2単位
	生物学概論Ⅰ	1年	2				
地学	地学*	1年	②	海洋資源工学Ⅰ	3年	2	2単位
	地球科学概論Ⅰ	1年	2	海底科学Ⅱ	3年	2	
	地球科学概論Ⅱ	2年	2	海洋地盤工学	3年	2	
実験科目 ※	物理学実験	物理学実験*	2年	1			1単位
	化学実験	化学実験*	2年	1			
	生物学実験	生物学実験*	2年	1			
	地学実験	地学実験*	2年	1			
各教科の指導法	●理科教育法Ⅰ	2年	2				4単位
	●理科教育法Ⅱ	2年	2				
その他理科の教科に関する科目(記載の科目より別途選択)							23単位
合 計							36単位

*一般的包括的な科目を含め、規定科目ごとの必要修得単位数を修得すること。
 ●印の科目は、卒業に必要な単位に含まない。
 各教科の指導法については記載の科目をすべて修得すること。

6. 介護等体験について

中学校教諭1種免許状（理科）を取得するためには、前頁4と5で定める科目の単位の修得に加え、社会福祉施設等で、原則、7日間の介護等体験が必要となります。

教員免許状の授与申請に当たっては、各体験先より発行される「介護等体験証明書」を提出する必要があります。

7. その他

教育職員免許状取得のための説明会、教育実習説明会等を次のとおり実施していますので、免許取得希望の学生は必ず出席して下さい。説明会等の日時は、掲示によりお知らせします。

教職に関する掲示版	講義棟1階正面玄関に入ってすぐ左側に教職の掲示版があります。説明会や実習等の情報・通知を掲示しますので、免許取得希望者は必ず確認してください。
・教育職員免許状の取得に関する説明会（1年次）	これから教育職員免許状を取得しようとする1年生を対象に毎年4月に実施しますので、免許取得希望の学生は必ず出席してください。日時は掲示しますので、教職に関する掲示版を注意して確認してください。
・教育実習説明会Ⅰ（2年次）	卒業年次に行われる教育実習に備えて、履修申込みに関する説明会を第2年次の2月上旬に実施します。説明会に出席するには、別途通知のレポートを提出する必要があります。 ここでは、教育実習校の選び方や、申込みの方法、内諾の得方等を説明します。この説明会に出席しない学生は、教育実習の履修を認めません。
・介護等体験説明会（2年次）	中学校教諭免許状1種（理科）取得予定者を対象に説明会を実施します。 ※中学校教諭免許状1種（理科）を取得するためには、社会福祉施設等で、原則、7日間の介護等体験が必要となります。 日時は掲示しますので、教職に関する掲示版を注意してください。
・教育実習説明会Ⅱ（4年次） ・教育職員免許状一括申請説明会（4年次）	卒業年次の4月中旬に、前年度に履修申込みを行った学生に対し履修方法の説明会を実施します。 ここでは、教育実習履修登録及び教育実習日誌を配付しその内容等の説明を行います。 この説明会に出席しない学生は、教育実習の履修を認めません。 また、併せて教員免許一括申請説明会を行いますので、一括申請を希望する学生は説明会に出席し、所定の手続きをしてください。
・教育実習の事前・事後指導（4年次） ・教育職員免許状一括申請手続き説明会（4年次）	卒業年次には、例年5月頃に「教育実習の手引」による事前指導を、さらに教育実習終了後（12月頃）には教育実習の事後指導をそれぞれ実施します。出席しない学生は「教育実習指導」の単位がつきませんので注意してください。 また、事後指導（12月頃）と同日に、教員免許状一括申請の申込をした学生に対し、申請手続きの説明会を行いますので、一括申請の申込をした学生は必ず出席してください。

教育実習Ⅰ・Ⅱ、教育実習指導、教職実践演習（中・高）は、4年次に進級しなければ履修できません。

介護等体験は、3年次に進級しなければ参加できません。

〔2〕学芸員

学芸員とは、博物館、水族館等が収集、保管（育成を含む）する資料の展示及び調査研究、その他これに関連する事業に関して専門的におかれる職員の資格です。「水族館」等においてこの資格が求められるケースがあります。学芸員になるためには、学芸員となる資格を取得しなければなりません。

1. 学芸員となる資格を有する者

学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者
(博物館法第5条第1項第1号)

2. 博物館に関する科目及び単位

学芸員の資格取得のためには、次表の授業科目の単位を修得しなければなりません。
なお、博物館実習の履修については、受講制限を行うことがあります。

博物館法施行規則で定める科目及び単位	単位	対応する本学部の授業科目	年次	単位	備 考
博物館概論	(2単位)	▲ 博物館学Ⅰ	2年次	2	▲印の科目は、卒業に必要な単位に含まない。
博物館経営論	(2単位)	▲ 博物館学Ⅱ	3年次	2	
博物館資料論	(2単位)	▲ 博物館学Ⅲ	3年次	2	
博物館資料保存論	(2単位)	▲ 博物館学Ⅳ	3年次	2	
博物館展示論	(2単位)	▲ 博物館学Ⅴ	3年次	2	
博物館実習	(3単位)	▲ 博物館実習Ⅰ	3年次	2	
		▲ 博物館実習Ⅱ	4年次	1	
博物館教育論	(2単位)	▲ 博物館教育論	2年次	2	
生涯学習概論	(2単位)	▲ 生涯学習指導論	2年次	1	
		▲ 生涯学習社会論	2年次	1	
博物館情報・メディア論	(2単位)	▲ 教育方法学(ICT活用含む)	2年次	2	
計	(19単位)	計		19	

大学指定選択科目	海洋植物学 <small>(海洋生命科学部 海洋生物資源学科 専門科目)</small>	1年次	4	左の科目の中から2科目以上の単位を修得しなければならない。
	海洋動物学 <small>(海洋生命科学部 海洋生物資源学科 専門科目)</small>	1年次		
	海洋生物学Ⅰ <small>(海洋資源環境学部 海洋環境科学科 専門科目)</small>	2年次		
	海洋生物学Ⅱ <small>(海洋資源環境学部 海洋環境科学科 専門科目)</small>	2年次		
	海洋生物学Ⅲ <small>(海洋資源環境学部 海洋環境科学科 専門科目)</small>	2年次		
	生物学概論Ⅰ <small>(海洋資源環境学部 基礎専門科目)</small>	1年次		
合 計			23	

(注) 博物館実習Ⅰの履修は、学芸員の科目のうち2年次までに開講されたすべての学芸員関係科目(8単位)及び大学指定選択科目(4単位)を修得済みの者のみ認めます。
また、博物館実習Ⅱの履修は、博物館実習Ⅰの単位を修得した者に限ります。

3. 博物館実習

(1) 博物館実習Ⅰ

博物館実習Ⅰは、本学のマリンサイエンスミュージアム(博物館相当施設)において、海の日(7月)、オープンキャンパス(8月)、海鷹祭(11月頃)の期間中に行います。事前にパンフレット原稿やポスターの作成作業があり、事前準備も含め、全ての日程に出席できることが履修の条件となります。

※同時期に行われる他の実習(「乗船実習Ⅱ」等)と日程が重なっても考慮はできません。

また、2年次までに開講されたすべての学芸員関係科目(8単位)及び大学指定選択科目(4単位)を修得済であること、3年次前期に開講される博物館学Ⅱ、Ⅳを履修中であることが履修の条件となります。

なお、定員(50名程度)を設けており、レポートによる選抜を行います。レポート課題は博物館実習Ⅰ履修ガイドダンス(3年次の4~5月頃)にて提示します。

博物館実習Ⅰは、3年次に進級しなければ履修できません。

(2) 博物館実習Ⅱ

博物館実習Ⅱは、学外の博物館等において学芸員等の指導のもとに、実習先の職員として実務実習を行います。

実習施設については、一部の施設を除き各自が探し出すことになります。また、履修にあたっては専門的知識を要求されるため、上記の博物館に関する科目の単位を修得していなければなりません。

① 実習が実施できる施設 (博物館法施行規則第1条第3項)

実習期間が原則として実質6日以上で、次のいずれかに該当する施設

1. 登録博物館
2. 博物館相当施設(本学のマリンサイエンスミュージアムを除く)
3. 大学において2の博物館相当施設に準ずると認めた施設

② 実習を行う時期

4月～12月まで

他の実験・実習と日程が重なる場合は、この実習を履修することになりますので、他の実験・実習の日程を考慮の上、実習期間を決めてください。

博物館実習Ⅱは、4年次に進級しなければ履修できません。

4. その他

・学芸員となる資格取得のためのガイダンスを、次のとおり実施しています。取得希望者は、必ず出席してください。なお、ガイダンスの日時は、掲示によりお知らせします。

・学芸員に関する掲示は、講義棟1階の玄関に設置された、学芸員関係の掲示板に掲示します。

学芸員となる資格取得 に関する説明会 (1年次)	これから学芸員を取得しようとする1年生を対象に毎年4月に実施しますので、資格取得を希望する学生は必ず出席してください。日時は別途掲示します。
博物館実習Ⅰ履修 ガイダンス (3年次)	3年次に実施する「博物館実習Ⅰ(学内)」の履修希望者を対象に、4月～5月頃にガイダンスを行います。日時は別途掲示します。 このガイダンスは、実習の前段階であり、実習の一環として実施されるものです。これに参加しない者は博物館実習Ⅰの履修を認めません。また、博物館実習Ⅰ履修者を選抜するためのレポート課題をガイダンス時に提示します。
博物館実習Ⅱ履修 ガイダンス (3年次)	4年次に実施する「博物館実習Ⅱ(学外)」の履修者を対象に、学外の博物館、水族館等において行う実務実習のガイダンスを2月頃に行います。博物館実習Ⅱを履修するには、すでに博物館実習Ⅰの単位を修得済でなければなりません。日時は別途掲示します。 このガイダンスは、実習の前段階であり、実習の一環として実施されるものです。これに参加しない者は博物館実習Ⅱの履修を認めません。

・教務係窓口にて、博物館実習の過去の受入先一覧、実習体験記が閲覧できますので、実習先を探す際に活用してください。

〔3〕技術士補

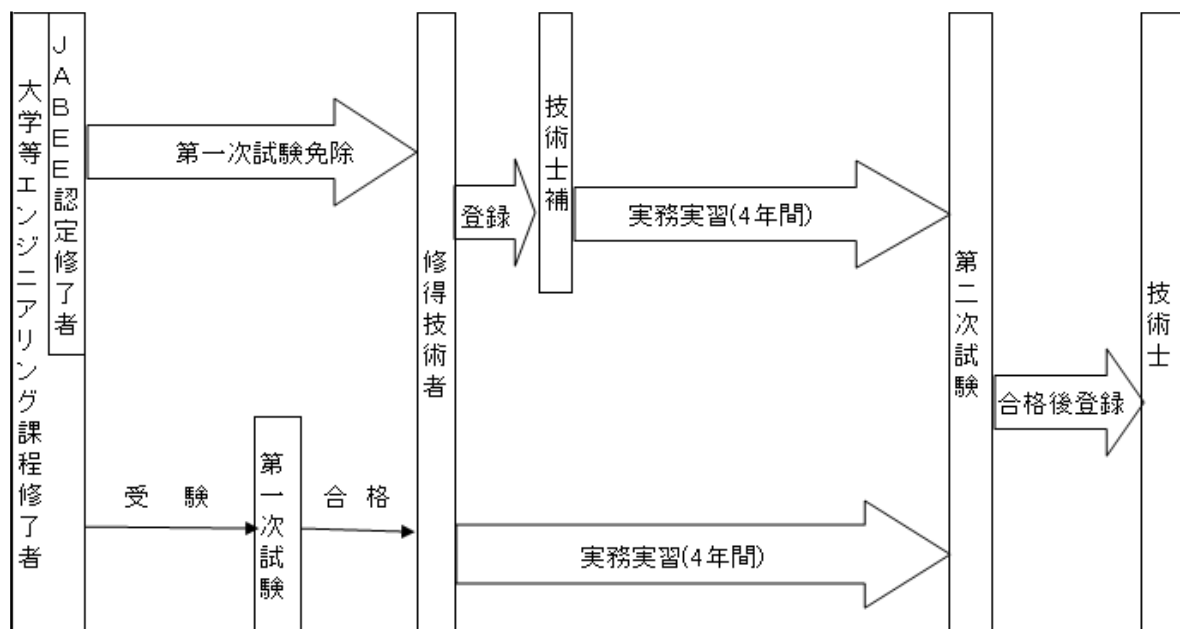
1. 技術士資格

技術士とは国より登録を受け、技術士の名称を用いて、科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項についての計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらに関する指導の業務を行う者をいい、技術士補とは技術士となるのに必要な技能を修習するため、国より登録を受け、技術士補の名称を用いて、業務について技術士を補助する者をいいます。

東京海洋大学海洋資源環境学部は、日本技術者教育認定機構（Japan Accreditation Board for Engineering Education）（JABEE）の認定を受けています。

JABEEは高等教育機関（大学・高専）における技術者教育プログラムが国際的に必要とされる基準に合致しているかの認定を行う機関であり、この基準に合致されていると評価されることにより海洋資源環境学部の卒業生は、技術士第一次試験が免除され、技術士補として登録することができるようになります。

技術士補は、一定の期間実務修習を行うことにより技術士第二次試験を受験することができます。



東京海洋大学海洋資源環境学部がJABEEの認定を受けることにより、その卒業生には上記に加え次のメリットがあります。

1. 教育内容を審査する機関であるJABEEの審査を受けているので、海洋資源環境学部卒業生は質的に高い技術基礎教育を受けたことが客観的に証明され社会的に高い評価を受けることが期待されます。
2. JABEEがワシントンアコードに加盟したので、海洋資源環境学部の卒業生は欧米主要国の認定プログラム修了者と同等と評価され、グローバルに通用することになります。

ワシントンアコードは工学教育の国際的な団体であり、その加盟国は他の加盟国が認定した技術者教育プログラムの修了者に対し自国の修了者と同等に取り扱うこととされているからです。

3. 技術士補に登録しなくとも、修習技術者として一定の期間実務修習を行うことにより技術士第二次試験を受験することができます。

2. 技術者教育プログラム

本学部の技術者教育プログラムを学科ごとに履修モデルとして示します。

この履修モデルにあるとおり、海洋資源環境学部の学生は卒業に必要な単位を修得することにより技術者教育プログラムが履修できるようになっています。

ただし、技術者教育プログラムは質的に高い技術基礎教育である必要があり、履修者には学習・教育到達目標を自覚して授業を受けることが求められています。

本学部の技術者教育プログラムは、以下の学習・教育到達目標を定めていますので、これを念頭において授業を履修してください。

海洋資源環境学部の学習・教育到達目標		
(A)	(コミュニケーション)	国際的にも通用するコミュニケーションの基礎能力を身につける。
1) 論理的かつ説得力のある文章表現を修得する。 2) 効果的なグラフ、図表、レポートの作成方法を修得する。 3) 口頭発表や討議等のコミュニケーション能力を修得する。 4) TOEICテストや少人数教育法の活用により、実践的な語学力を修得する。 5) 他者と協働する際に、自己や他者に求められる行動を的確に判断し、適切に働きかける能力を修得する。		
(B)	(技術者倫理)	技術者としての倫理と、責任ある社会活動を可能にする能力を身に付ける。
1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任を理解する。 2) 各専門科目と社会や自然環境との係わり合いを理解する。		
(C)	(科学基礎)	数学・自然科学・情報技術の基礎知識を身に付ける。
1) 広範に応用が可能な科学の基礎力をつける。 2) 論理的思考力および適正な自然観を修得する。 3) 科学技術に必要な計算能力および情報処理能力をつける。		
(D-1)	(海洋環境科学基礎)	水圏と地球環境、海洋生物、その持続的利用についての、水産・海洋に関する基礎的知識を身に付ける。
1) 水産・海洋の領域を総合的に考察するために必要な知識を修得する。 2) 特に重要な地球環境の保全、海洋環境の保全、水産資源の持続的利用についての知識を得る。 3) 自身の専門の水産・海洋学における位置付けを理解する。 4) 具体的には、海洋学、海洋生物学の各関連科目を修得する。		
(D-2)	(海洋資源エネルギー学基礎)	水圏と地球環境、海洋資源エネルギーの利用についての、水産・海洋に関する基礎的知識を身に付ける。
1) 水産・海洋の領域を総合的に考察するために必要な知識を修得する。 2) 特に重要な地球環境の保全、水産資源の持続的利用、海洋資源エネルギーの利用についての知識を得る。 3) 自身の専門の水産・海洋学における位置付けを理解する。 4) 具体的には、海洋資源工学、海洋資源エネルギー学の各関連科目を修得する。		
(E)	(専門知識)	以下に示す専門知識を身に付ける。
1) (海洋環境科学科) 海洋学、海洋生物学に関する様々な専門分野の視点から、海洋における諸現象の観測・解析・予測や、海洋保全・修復にかかわる知識・技術を身につける。 2) (海洋資源エネルギー学科) 海洋開発学、応用海洋工学に関する様々な専門分野の視点から、海洋における諸現象の観測・解析・予測、海底の資源・再生可能エネルギーの利用や、海洋保全にかかわる知識・技術を身につける。		

(F)	(実験・実習・演習・調査)	<p>実験・実習・演習・調査を計画・遂行し、自己学習の習慣を身に付けるとともに結果を解析・考察し、問題を解決する能力を身に付ける。</p> <p>また、海上や現場で与えられた条件の中で実際の対象に対して適切に判断し、対処する能力を養う。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1) 効果的な計画を立て、与えられた制限の多い場で、沈着冷静に目的を達成する能力を養う。 2) データを正確に解析・考察し、かつ説明する能力を身に付ける。 3) 講義で得た知識を実際に確認しつつ、自己の能力を評価し向上させることによって、問題解決能力を磨く。 4) 実際の現場や社会での実習を通じ、技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、専門科目の意義を体感する。 5) 現場実習における体験を一般化し、説明する力を養う。 6) 他者と協働する上で必要とされる行動を理解し、協働作業に適切に対処する能力を修得する。 		
(G)	(生涯学習)	<p>最先端の水産・海洋技術者として活動するために必要となる、さらに高度で専門的な知識の生涯学習能力を身に付ける。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に必要な文献や資料を調べ、研究者などに質問しつつ、継続的に学習できる能力を身に付ける。 2) 各種の解決すべき問題に対して、どの分野または科目が対応するのかを判断できる能力を養う。 		
(H)	(課題解決能力)	<p>水産・海洋技術の専門的な知識・技術を総動員して、課題を探求し、その課題を解決するための研究を組み立て、遂行し、その結果をまとめ、発表できる実践的課題解決能力を身に付ける。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1) 解決すべき課題を明確にし、それらを解決する方法の策定を図る能力を養う。 2) 課題に対して、基礎科学・専門技術などを総合して対処する能力を養う。 3) 課題の解決にあたり、結果をとりまとめ報告し、残る問題点の対処法を明確にする能力を強化する。 4) 課題の解決にあたり、他者と協働して適切に対応する能力を修得する。 		
(I)	(総合的判断)	<p>広く学問的知識を身に付け、柔軟な総合的判断力を修得する。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1) 地球的、社会的視点から多面的に物事を考える能力を養う。 2) 他人や他分野からの意見などを謙虚に受け止める素養を磨く。 3) 技術的成果に対して、常に反省を怠らず、向上を目指す姿勢を身につける。 		

表4-4 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ（海洋環境科学科 履修モデル）

学習・教育到達目標	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業論文
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
A コミュニケーション	Basic English I Practical English I 英語以外外国語 I	Basic English II Practical English II 英語以外外国語 II 日本語表現法	Effective English I Interactive English I 英語以外外国語 III	Effective English II Interactive English II 英語以外外国語 IV	Intensive English I	Intensive English II			卒業論文
B 技術者倫理	哲学 科学史	現代倫理学	生命・環境文化 心理学	哲学史 技術史			セミナー		
C 科学基礎	物理学 化学 生物学 地学	物理学概論 I 化学概論 I 生物学概論 I 地球科学概論 I	化学概論 II 生物学実験 地学実験	物理学概論 II 地球科学概論 II 物理学実験 化学実験		数値モデリング	数値モデリング演習		
D-1 海洋環境科学基礎	海洋生命科学概論 海洋工学概論 海洋資源環境学概論		Natural Sciences						
E 専門知識			生物海洋学	物理海洋学 I 環境情報解析学 I 沿岸海洋学 I 環境動態学 I 海底科学 I General Oceanography	物理海洋学 II 環境情報解析学 II 沿岸海洋学 II 環境動態学 II 化学海洋学 海底科学 II 海洋学研究の最前線	海域連携利用論 海洋政策学 環境アセスメント論			
F 実験・実習・演習・調査	フレッシュマンセミナー スポーツ I スポーツ II		地学実験 生物学実験	物理学実験 化学実験	海洋生物学実験 I	海洋科学実験 海底科学実験 海洋生物学実験 II 海洋生物学実験 III 海洋生物学実験 IV 環境生命化学実験	海洋科学実験 海底科学実験 海洋生物学実験 II 海洋生物学実験 III 海洋生物学実験 IV 環境生命化学実験 セミナー		
G 生涯教育	TOEIC入門	日本語表現法	Natural Sciences	General Oceanography	海洋学研究の最前線	TOEIC演習 Aquatic Biology 海洋生物学研究の最前線			
H 課題解決能力	フレッシュマンセミナー						乗船実習 IV		
I 総合的判断	スポーツ I 健康科学 人文地理学	スポーツ II 文学 芸術学 ヨーロッパ文化論	英米表象文化入門 心理学	英米社会文化入門		職業指導			
	国際法 経済学 近現代史	社会学 日本国憲法 政治学					乗船実習 II 乗船実習 III 乗船実習 IV		

表 4-5 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ (海洋資源エネルギー学科 履修モデル)

学習・教育到達目標	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業論文
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
A コミュニケーション	Basic English I Practical English I 英語以外外国語 I	Basic English II Practical English II 英語以外外国語 II 日本語表現法	Effective English I Interactive English I 英米以外外国語 III	Effective English II Interactive English II 英語以外外国語 IV	Intensive English I	Intensive English II			
	TOEIC入門		英米表象文化入門		英米社会文化入門		TOEIC演習		
B 技術者倫理	哲学 科学史	現代倫理学	生命・環境文化 心理学	哲学史 技術史			セミナー		
C 科学基礎	物理学 化学 生物学 地学	物理学概論 I 化学概論 I 生物学概論 I 地球科学概論 I	物理学概論 II 化学概論 II 分析化学 生物学実験 地学実験	生物学概論 II 地球科学概論 II 物理学実験 化学実験					
	基礎微積分 I 基礎微積分 II 情報リテラシー	数理解析 線形代数 データサイエンス入門 データサイエンス入門	数理科学 物理数学 情報処理論	統計学 データサイエンス	数値モデリング	数値モデリング演習			
D-2 海洋資源 エネルギー学 基礎	海洋生命科学概論 海洋工学概論 海洋資源環境学概論		Natural Sciences						
E 専門 知識				General Engineering 基礎工学 I 基礎工学 II 海底科学 I	海域連携利用論 海底科学 II 海洋自然エネルギー学 海洋エネルギー工学 I 海洋資源地球化学 海洋地盤工学 I 海洋資源工学 I 海洋音響学 沿岸工学 電気電子工学	海洋政策学 環境アセスメント論	物理海洋学 I 基礎工学 III 海洋エネルギー工学 II 海洋資源工学 II 海洋資源工学 III 海洋計測学 海上安全工学 海洋開発学実験 応用海洋工学実験 Marine Resource and Energy 海洋開発学研究の最前線 応用海洋工学研究の最前線		
F 実験・実 習・演習・ 調査	フレッシュマンセミナー		地学実験 生物学実験	物理学実験 化学実験			海洋開発学実験 応用海洋工学実験	セミナー	
	スポーツ I	スポーツ II	海洋資源エネルギー学実習 I		海洋資源エネルギー学実習 II				
			海洋学実習 I		海洋学実習 II 臨海生物学実習 海洋資源環境キャリア実習 I		海洋資源環境キャリア実習 II		
				乗船実習 I	乗船実習 II			乗船実習 III	乗船実習 IV
G 生涯教育	TOEIC入門	日本語表現法	Natural Sciences	General Engineering		TOEIC演習			
					海洋開発学研究の最前線 応用海洋工学研究の最前線				乗船実習 IV
H 課題解決 能力	フレッシュマンセミナー						セミナー		
			グローバルキャリア入門 キャリア形成論 I		海外派遣キャリア演習 I キャリア形成論 II		海外派遣キャリア演習 II		乗船実習 IV
I 総合的 判断	スポーツ I 健康科学	スポーツ II		英米表象文化入門	英米社会文化入門				
	人文地理学	文学 芸術学 ヨーロッパ文化論		心理学		職業指導			
	国際法 経済学 近現代史	社会学 日本国憲法 政治学							
						乗船実習 II	乗船実習 III	乗船実習 IV	

卒業論文

〔4〕海技士の免許

船舶職員となるためには、海技免状の交付を受けなければなりません。

海技免状は、海技従事者国家試験に合格し、国土交通大臣が指定する海技免許講習の課程を修了した者に与えられます。ただし、国土交通大臣が指定した船舶職員養成施設を修了した者には、海技従事者国家試験の筆記試験が免除されます。

海洋資源環境学部の学生が船舶職員養成施設の修了資格を得るためには、「船舶職員養成施設の課程の修了資格を得るために履修すべき授業科目」（海技科目）の単位を全て修得して学部を卒業後（※注）、さらに海洋科学専攻科を修了しなければなりません。

※ 注：編入学で入学した学生及び海洋科学専攻科に補充入学した学生については、学部を卒業し、海洋科学専攻科を修了しても養成施設の修了資格は得られず、海技従事者国家試験の筆記試験が免除されないため、自分で三級海技士（航海）の筆記試験を受験・合格し、かつ学外で行われる海技免許講習の課程を修了する必要があります。履修状況等によっては学校卒業者に対する乗船履歴の特例を受けられない場合もありますので、必ず教務係に問い合わせてください。なお、海洋工学部から転学部した学生については、海洋工学部において海技関係科目の単位を修得していた場合でも、海洋資源環境学部履修規則で定める海技関係科目を修得する必要があります。

海洋科学専攻科進学希望者の履修

海洋資源環境学部等の卒業生に対し、1年間の課程で海洋科学専攻科が置かれています。

海洋科学専攻科は、海洋・水産分野における船舶の運航に関する高度な知識と技術を持った海上技術者を育てるために設置されているもので、海鷹丸、神鷹丸、汐路丸などの練習船による実務教育に重点を置き、航海実習や漁業実習、海洋観測実習などを課すことによって優れた船舶職員養成を図っています。

海洋資源環境学部・海洋科学専攻科一貫の課程は、次の各種資格の養成施設として関係省庁に登録されています。

三級海技士（航海） 第一種養成施設 (国土交通大臣登録)	海技士資格取得に必要な国家試験（身体検査、筆記試験、口述試験）のうち筆記試験が免除されます。 また、①受験資格の乗船履歴も、学校卒業者に対する乗船履歴の特例により通常3年が必要なところ1年に軽減され②三級海技士の海技士資格の免許を受けようとする際に必要な資格である海技免許講習の修了資格を取得できます。 ※海技士資格取得に必要な科目等は別表のとおり
第一級海上特殊無線技士 長期型養成課程 (関東総合通信局長登録)	第一級海上特殊無線技士の試験が免除され、総務省への申請により資格を取得できます。
船舶衛生管理者養成施設 (国土交通大臣登録)	船舶衛生管理者の試験が免除され、国土交通省への申請により資格が取得できます。

海洋科学専攻科への進学等に関することは、次のとおりです。

1. 海洋科学専攻科進学の要件

海洋科学専攻科へ進学する者は、次の(1)、かつ、(2)を満たしていなければなりません。

- (1) 海洋資源環境学部を3月に卒業し引き続き海洋科学専攻科へ進学する者
- (2) 海洋資源環境学部の学生で、履修規則別表5及び6（三級海技士（航海）に関する全科目（後掲の表ア・イ・ウの学部開講科目））に定める科目を履修した者

2. 海洋科学専攻科進学者の選考

進学を志望する者（鹿児島大学及び長崎大学からの進学希望者を含む）が入学定員の40名を超えた場合は、3年次後学期定期試験期間中に、順位決定試験を行う場合があります。

3. 海洋科学専攻科進学手続き

海洋科学専攻科へ引き続き進学を志望する者は、3年次の所定の期間内に「専攻科進学願」を教務課に提出してください。詳細は掲示で案内するので、見落としのないよう注意すること。

4. その他

- (1) 船舶衛生管理者に関する科目は、資格取得を希望する者は修得しなければなりません、海洋科学専攻科進学に必要な単位ではありません。
- (2) 進学を志望する者（鹿児島大学及び長崎大学からの進学希望者を含む）が入学定員の40名に満たない場合は船舶の運航技術について教育を行う大学等の学部（本学部含む）において、別に定める授業科目の単位を修得し卒業した者についても、選考の上補充入学を許可することがあります。（海技士資格が取得できない場合があります。）
- (3) (2)の募集等は、大学ホームページにより通知します。詳細については、入試課に問い合わせてください。

5. 船舶職員及び小型船舶操縦者法で定められた身体検査の基準

検査項目	身体検査基準
視力 (五メートルの距離で万国視力表による。)	海技士(航海)の資格 視力(矯正視力を含む。)が両眼共に〇.五以上であること。
色覚	船舶職員としての職務に支障をきたすおそれのある色覚の異常がないこと。
聴力	五メートル以上の距離で話声語を弁別できること。
疾病及び身体機能の障害の有無	心臓疾患、視覚機能の障害、精神の機能の障害、言語機能の障害、運動機能の障害その他の疾病又は身体機能の障害により船舶職員としての職務に支障をきたさないと認められること。

6. 一級海技士及び二級海技士の筆記試験と就職

海技従事者国家試験の一級海技士及び二級海技士の筆記試験は、在学中から受験することもできます。在学中に筆記試験に合格した場合は、就職後、必要な乗船履歴を得て、口述試験に合格することによってその資格を得ることができます。

卒業後、船舶職員になろうとする場合は、就職の際に二級海技士以上の筆記試験合格を要求されることもあるので、在学中に合格しておくことが望ましいと考えられます。

三級海技士（航海）第一種養成施設

海洋科学専攻科へ進学する者は、三級海技士（航海）に関する全科目（次のア・イ・ウの学部開講科目）の単位を修得しなければなりません。

ア 三級海技士（航海）第一種養成施設として必要な科目

船舶職員及び小型船舶操縦者法施行規則による必要履修科目及び単位	対応する本学部の授業科目 (海技必修科目)	単位及び開講年次			
		2年次	3年次	4年次	海洋科学専攻科
航海に関する科目 (16単位)	海洋計測学 (注1) (2)		2		
	応用情報学 (注1) (2)		2		
	電気電子工学 (注1) (2)		2		
	応用計測学 (2)				2
	航法学 (2)				2
	応用電子工学 (2)				2
	航海計器学 (2)				2
	航海学 (2)				2
小 計 (16)		6		10	
運用に関する科目 (16単位)	環境動態学Ⅱ (注2) (2)		2		
	海上安全工学 (注1) (2)		2		
	船舶運用学 (2)				2
	海洋気象学 (2)				2
	船舶安全学 (2)				2
	移動体工学 (2)				2
	船舶衛生論 (2)				2
	機関工学 (2)				2
小 計 (16)		4		12	
法規に関する科目 (4単位)	海事法規 (注3) (2)	2			
	海上衝突予防法 (2)				2
	小 計 (4)	2			2
合 計 (36)		2	10	0	24

※ () 内の数字は、船舶職員及び小型船舶操縦者法施行規則による必要履修単位として認められた単位数を示します。

イ 三級海技士（航海）第一種養成施設として必要な乗船履歴

開講年次等	3年次	4年次		海洋科学専攻科	計
授業科目	乗船実習Ⅱ (3単位)	乗船実習Ⅲ (3単位)	乗船実習Ⅳ (9単位)	乗船実習 (21単位)	12ヶ月
乗船期間	1ヶ月	1ヶ月	3ヶ月	7ヶ月	

ウ 免許講習機関として必要な科目及び実習

船舶職員及び小型船舶操縦者法施行規則による必要な科目・時間	対応する本学部の授業科目	単位及び開講年次				
		1年次	2年次	3年次	4年次	海洋科学専攻科
レーダー観測者講習 (21時間)	乗船実習Ⅰ		1			
救命講習 (14時間)	航海学演習					3
消火講習 (7時間)						
レーダー・自動衝突予防援助装置シミュレータ講習 (14時間)	航海学演習					3
電子海図情報表示装置講習 (40時間)	航海学演習					3
上級航海英語講習 (77時間)	Basic English I (2)	1				
	Basic English II (単修)	1				
	Effective English I (位得)		1			
	Effective English II (以す)		1			
	Interactive English I (上る)		1			
	Interactive English II (事)		1			
海事英語						2
合 計		2	5	0	0	11

※ (注1)は海洋資源エネルギー学科開講専門科目、(注2)は海洋環境科学科開講専門科目、(注3)は海洋生命科学部開講専門科目です。所属学科により、専門科目他学部・他学科等開講科目に算入されますので、ご注意ください。

〔5〕第一級海上特殊無線技士

第一級海上特殊無線技士は、船舶に設備された無線電話や海上関係のレーダーを操作するために必要な資格であり、外航船に船長又は航海士として乗船するには第一級以上が必要です。

海洋資源環境学部の学生が第一級海上特殊無線技士の資格を得るためには、下記に指定された単位を全て修得し、学部を卒業後、さらに海洋科学専攻科においても単位を修得し、修了することにより、無線従事者の免許申請に必要な資格を取得することができます。

資格を取得した学生は、第一級海上特殊無線技士の試験に合格したものとみなされ、総務省への申請により資格を取得できます。

省令に規定する科目	対応する本学部の授業科目	単位及び開講年次				
		1年次	2年次	3年次	4年次	海洋科学 専攻科
無線機器学その他無線機器に関する科目	乗船実習 I		1			
	乗船実習 IV				9	
	船舶情報学					2
	海洋計測学（注1）			2		
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	乗船実習 IV				9	
	航海学					2
電子計測その他無線測定に関する科目	船舶情報学					2
電気通信術その他通信実技に関する科目	乗船実習 IV				9	
	船舶情報学					2
電波法規その他電波法令に関する科目	船舶情報学					2
国際電気通信条約その他国際条約に関する科目	船舶情報学					2
英会話に関する科目	海事英語					2

※ なお、本資格及び本資格より上位の資格である第三級海上無線通信士の資格は、公益財団法人日本無線協会が実施している国家試験（毎年2回から3回）を受け、これに合格することによっても取得することができます。

※（注1）は海洋資源エネルギー学科開講専門科目です。所属学科により、専門科目他学部・他学科等開講科目に算入されますので、ご注意ください。

〔6〕船舶衛生管理者

海洋資源環境学部の学生が船舶衛生管理者の資格を得るためには、下記に指定された単位を全て修得し、学部を卒業後、さらに海洋科学専攻科においても単位を修得し、修了することにより、船舶衛生管理者の免許申請に必要な資格を取得することができます。

資格を取得した学生は、船舶衛生管理者の試験が免除され、国土交通省への申請により資格が取得できます。（国土交通大臣登録）

船舶衛生に関する科目	対応する本学部の授業科目	単位及び開講年次				
		1年次	2年次	3年次	4年次	海洋科学 専攻科
薬物、精神衛生	健康科学	2				
保健指導、疾病予防、一般体育実技	スポーツ I	1				
	スポーツ II	1				
労働生理、船内衛生、食品衛生、疾病予防、保健指導、労働衛生法規	海と健康（注1）		2			
	船舶衛生論					2
保健指導、実技実習 （看護法、救急処置法 その他必要実技実習）	乗船実習 I		1			
	乗船実習 II			3		
	乗船実習 III				3	
	乗船実習 IV				9	
	乗船実習					21

※（注1）は海洋生命科学部開講専門科目です。専門科目他学部・他学科等開講科目に算入されますので、ご注意ください。

学 修 の 手 引 き

(Ⅲ. 資格取得に関する学修 [2])

[2]. 学 内 資 格

[1] 海洋学コース (学部から博士前期課程まで) (対象:海洋環境科学科)

[2] 数理・データサイエンス・AI教育プログラム (リテラシーレベル) (対象:全学科)

〔1〕 海洋学コース（学部から博士前期課程まで）

（対象：海洋環境科学科）

1. 養成する人材

本学は海洋に関連する幅広い学問分野についての教育・研究を行っていますが、その1つに狭い意味の「海洋学」（Oceanography）があります。海洋学は、観測によるデータ取得を基盤とし、システムとしての海洋そのものを研究対象とする基礎科学です。海洋には、流動や熱収支などに関わる物理過程、物質の変化や輸送に関わる化学過程、生物群集の動態に関わる生物過程がありますが、これらの過程は統合した1つのシステムとして機能しています。海洋システムは、気候変動プロセスにおいて極めて重要な役割を果たしており、微細な変動についての高精度な観測・モニタリングが求められます。本コースで養成する人材は、1）船上という特殊な環境において、先端的観測設備を駆使した高度な観測オペレーションを安全に実施するための技術と専門知識を有し、かつ2）観測データを適切に解析・評価するために、海洋における物理・化学・生物過程のいずれについても素養を有する、高度な専門的人材です。このような人材は、気候変動に関連する海洋の研究だけでなく、水質汚濁・生態系破壊などのモニタリングとアセスメント、生物資源調査なども含めて、研究・調査・行政分野を中心に幅広い活躍が期待されます。

2. 養成のための教育内容等

上記のような人材を育成するため、本学では学部から博士前期課程までの一貫教育プログラムを設けています。海洋システムの統合的理解のための体系的な海洋学教育と、本学練習船や他機関の研究・調査船での海洋観測への参画による実地教育が、本コースの2つの大きな柱になっています。

3. 本コースの修了に必要な授業科目

本コース修了に必要な学部科目（31単位）は次の通りです。

授業科目の区分	授業科目	単位	1年	2年	3年	4年	必要単位数
海洋学に関する基礎科目	General Oceanography	2		2			8単位
	生物海洋学	2		2			
	物理海洋学Ⅰ	2		2			
	化学海洋学	2			2		
海洋観測に関する科目	海洋学実習Ⅰ	1		1			5単位
	海洋学実習Ⅱ	1			1		
	乗船実習Ⅱ	3			3		
海洋システムの統合的解析に関する科目	環境動態学Ⅰ	2		2			海洋システムの統合的解析に関する科目4単位以上を含む18単位
	環境情報解析学Ⅰ	2		2			
	海洋生態学Ⅰ	2			2		
海洋システムおよび関連プロセスに関する科目	物理海洋学Ⅱ	2			2		
	環境動態学Ⅱ	2			2		
	地球科学概論Ⅰ	2	2				
	地球科学概論Ⅱ	2		2			
	沿岸海洋学Ⅰ	2		2			
	沿岸海洋学Ⅱ	2			2		
	海底科学Ⅰ	2		2			
	海底科学Ⅱ	2			2		
	海洋生物学実験Ⅰ	1			1		
	海洋生物学実験Ⅱ	1			1		
	海洋生物学実験Ⅲ	1			1		
	海洋生物学実験Ⅳ	1			1		
海洋科学実験	1			1			
海底科学実験	1			1			
修了に必要な単位数計							31単位

本コース修了には、上記の学部科目に加えて、次の博士前期課程の科目（15単位）の修得が必要です。

利用区分	開講する大学院の専攻	授業科目	単位数	備考
海洋観測実務に関する科目	海洋資源環境学専攻	海洋観測実習	1	本表の科目のうち、海洋観測実務に関する科目3科目3単位は必須とする。 その他の3つの科目区分については、それぞれの区分から1科目2単位計6単位を含む6科目12単位以上の習得を要する。
		沿岸観測実習	1	
		外洋観測実習	1	
物理的プロセスに関する科目	海洋資源環境学専攻	海洋力学	2	
		沿岸海洋物理学	2	
		海洋混合学	2	
		環境情報解析学	2	
		地球気候変動論	2	
		環境測定学	2	
		海洋リモートセンシング	2	
		海上気象情報解析	2	
		海底探査概論	2	
	海運ロジスティックス専攻	環境解析論	2	
	環境予測論	2		
	海洋システム工学専攻	大気環境計測学	2	
大気環境物理学	2			
化学的プロセスに関する科目	海洋資源環境学専攻	化学海洋システム論	2	
		海洋環境保全学	2	
		生元素循環論	2	
		海洋無機化学	2	
		海底生物地球化学	2	
		海底物質科学	2	
		海洋化学センシング技術	2	
生物学的プロセスに関する科目	海洋資源環境学専攻	生物環境学	2	
		浮遊生物生態学	2	
		浮遊生物機能論	2	
		魚類生理生態学	2	
		環境生態学	2	
		海洋生物資源生態論	2	
	海洋生命資源科学専攻	漁業解析学	2	
修了に必要な単位数計				15単位

4. 履修認定・修了認定

本コースの修了要件を満たし、博士前期課程を修了した者については、願い出により「海洋学コース」の修了認定（修了証授与）を、東京海洋大学が行います。なお、本コース修了に必要な学部科目を修得して学部を卒業した者については、願い出により「海洋観測士ベーシックコース」の修了認定（修了証授与）を、さらに本コース修了に必要な学部科目を修得して海洋科学専攻科を修了した者については、願い出により「海洋観測士アドバンスドコース（技術系）」の修了認定（修了証授与）を、東京海洋大学が行います。

授業科目の区分	授業科目	必要単位数
航海に関する科目	応用計測学	2
	応用電子工学	2
	航海計器学	2
運用に関する科目	海洋気象学	2
修了に必要な単位数計		8単位

〔2〕数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）

（対象：全学科）

本学では学部学生等が数理・データサイエンス・AI等への関心を高めるとともに、必要な知識及び技術を体系的に修得できるよう、次のとおり教育プログラムを設定しています。

1. 教育プログラムの名称・概要

- (1) 名称 『数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）』
- (2) 概要 全学共通の学部教育プログラムとして数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）を設定し、本プログラム修了者には修了証を発行する。
なお、本プログラムは、数理・データサイエンス・AIを学ぶ基礎となるリテラシーのプログラムであり、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義や社会における利用動向・問題、基礎的な技術の概要についての教育を行う。

2. 授業科目及び修了要件

授業科目	学年	単位	修了要件
データサイエンス入門A	1年	1	2科目を履修し単位を修得すること。
データサイエンス入門B	1年	1	

3. 学生が身に付けられる能力

- (1) 「データサイエンス入門A」
 - ① 社会に対する影響を知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する。
 - ② データ・AI研究・利用の最新動向を知る。
 - ③ データの種類と収集方法を知る。
 - ④ データ・AIの活用領域を知る。
 - ⑤ 具体的なデータ・AIの活用・開発事例を知る。特に海洋におけるデータ・AIの活用事例を知る。
 - ⑥ データ・AI利活用における倫理・法律・情報セキュリティの問題を理解する。
- (2) 「データサイエンス入門B」
 - ① データを扱う上での統計学の基礎、可視化、手法について理解する。
 - ② データ・AI利活用の技術の概要を知る。
 - ③ データからモデルを学習する過程を知る。

4. 数理・データサイエンス・AI教育における本プログラムの位置付け

リテラシーレベルに続く数理・データサイエンス・AI教育は以下のように整理できるので今後の学習の参考にしてください。

- I データ表現とアルゴリズム：「数学基礎（統計数理、線形代数、微分積分）」「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」
- II AI・データサイエンス基礎：「AI基礎」「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」「深層学習の基礎と展望」
- III AI・データサイエンス実践：「データエンジニアリング基礎」、「データ・AI活用 企画・実施・評価」
- IV 数学発展：「統計数理」「線形代数」「微分積分」
- V AI応用基礎：「機械学習」「深層学習」「知的活動に関わるAI技術」
- VI データサイエンス応用基礎：「データハンドリング」「学習の分析」「最適化」
- VII データエンジニアリング応用基礎：「データエンジニアリング」「各種ライブラリ・フレームワーク」

学 修 の 手 引 き

(IV. 教務関係の諸手続等)

- 〔1〕 授業料について
- 〔2〕 教務関係事項の通知及び連絡
- 〔3〕 証明書
- 〔4〕 欠席
- 〔5〕 休学
- 〔6〕 復学
- 〔7〕 退学
- 〔8〕 転学科
- 〔9〕 転学部
- 〔10〕 気象警報発令及び交通機関不通時等の授業等の取扱いについて
- 〔11〕 国立科学博物館の利用
- 〔12〕 国立美術館の利用
- 〔13〕 障害等のある学生に対する事前相談について

〔1〕授業料について

本学では、授業料の支払い方法を原則として預金口座自動振替（口座引き落とし）としています。授業料は前期分が5月20日、後期分が11月20日に大学に届出をした銀行口座から引き落とされます。（20日が土・日・祝祭日の場合は翌営業日）。前日15時までに授業料相当額を入金しておいてください。

また、前期分または後期分の授業料の引き落としができず、督促してもなお納付されない場合は、未納学期の学期末で除籍となります。

なお、入学金、授業料未納学期における修得単位は、認められません。

〔2〕教務関係事項の通知及び連絡

1. 連絡方法

教務課で行う学生への通知及び連絡は、掲示板に掲示またはLiveCampusにて行います。

学生は、毎日の入構時及び帰宅時に必ず掲示板を確認することと、メールチェックを随時行ってください。

【通知及び連絡事項】

- 時間割表関係
休講、補講、集中授業、授業担当教員変更、開講曜日・時間変更
- 試験、レポート関係
- 実験・実習関係、呼び出し
- その他（主な行事、資格関係、転学科者・海洋科学専攻科進学者決定通知等）

2. 窓口事務取扱時間

教務課の窓口事務取扱時間は8：30～18：00、証明書自動発行機の稼働時間は9：00～18：00です。

※土・日・祝日、「夏季一斉休業」、「年末年始一斉休業」は開設していません。また、入学試験等により学内への入講が制限される場合があります。

※休業期間中等は、窓口の開設時間を短縮あるいは終日閉鎖する場合があります。

その際は、事前に掲示等でお知らせします。

〔3〕証明書

1. 以下の証明書については、教務課窓口前エントランスに設置してある証明書自動発行機で発行します。

和文・・・「在学証明書」、「成績証明書」、「卒業見込証明書」、「卒業証明書」、
「学校学生生徒旅客運賃割引証(学割)」、「通学定期券購入証明書」、「健康診断証明書」
英文・・・「在学証明書」、「成績証明書」、「卒業見込証明書」、「卒業証明書」

2. 上記以外の証明書については、諸証明書交付願に所要事項を記入して願い出なければなりません。この場合の証明書の交付日は、申し込みが集中する期間を除き、申請日の3日後の午後とします。

*「諸証明書交付願」は、大学ホームページ

(https://www.kaiyodai.ac.jp/student/studentsnews/certificatez/post_320.html) からダウンロードできます。

3. 卒業後、「成績証明書」「卒業証明書」「在籍期間証明書」「学力に関する証明書（教職課程に関するもの）」「学芸員単位修得証明書」の発行については有料となります。大学ホームページの卒業生の方ページの専用サイト (<https://www.kaiyodai.ac.jp/graduate/certificate/certificate.html>) よりオンラインで申請してください。

窓口での申請はできません。

なお、その他の証明書の発行を希望する場合は、直接担当する窓口を確認してください。

〔4〕欠席

次の事由による場合のみ、欠席届を受け付けます。

① 7日以上の病気・怪我（診断書等を添付すること。）

② その他やむを得ない事由（忌引き等。日時を証明できるものを添付すること。）

〔5〕 休 学

疾病、その他の特別の理由により2ヶ月以上修学することができない者は、学長の許可を得て休学することができます。

1. 休学の手続

休学の許可を得ようとする場合は、休学願に疾病の場合は医師の診断書、その他の場合は具体的な理由を添付し、教務課総務係に提出しなければなりません。なお、提出に際しては事前に学生支援教員、指導教員及び教務課総務係と相談してください。

※休学願は希望開始日の一か月前までに必ず提出してください。

(例) 4月から休学：2月末まで 10月から休学：8月末まで
(提出期限内に提出できない場合は、窓口にお問い合わせください。)

2. 休学期間

休学期間は1年以内としますが、特別の理由がある場合は1年を限度として休学期間を延長することができます。

休学期間は、継続して2年、通算して3年を超えることができません。

なお、休学期間は在学期間に算入しません。

3. 休学期間の授業料

1. 学期の初日(前学期は4月1日、後学期は10月1日)から休学する場合は、休学期間中(月の途中までの休学の場合は、その前月まで)の授業料が免除されます。
2. 学期の途中から休学する場合については、前学期は5月1日、後学期は11月1日までに休学を開始する場合に限り、授業料は4月分、10月分のみ徴収となり、休学を終了する月まで(月の途中までの休学の場合は、その前月まで)の授業料は免除されます。
3. 前学期は5月2日以降、後学期は、11月2日以降から休学する場合は、その学期の授業料の全額を徴収します。

なお、休学を遡ってすることは出来ません。

また、授業料の徴収猶予を受けている場合や前・後学期にまたがって休学する場合については、このとおりとは限りませんので、詳細については必ず教務課総務係にご確認下さい。

〔6〕 復 学

休学期間満了後は、自動復学となりますので、注意して下さい。

休学期間中にその事由が消滅したときは、復学願を教務課総務係に提出し、学長の許可を受けなければなりません。

復学した者は、復学の際に、月割計算によるその期の授業料を納付しなければなりません。

〔7〕 退 学

退学しようとする者は、学長の許可を受けなければなりません。

(退学の手続)

退学の許可を得ようとする場合は、退学願を教務課総務係に提出しなければなりません。

なお、提出に際しては事前に学生支援教員、指導教員及び教務課総務係と相談してください。

各授業料納付期限の初日以降に退学の許可を受ける場合は、当該期分の授業料を納付しなければなりません。

ただし、分納を認められていた者は翌月から免除されます。

※退学願は希望開始日の一か月前までに必ず提出してください。

(例) 3月末：2月末まで 9月末：8月末まで
(提出期限内に提出できない場合は、窓口にお問い合わせください。)

〔8〕 転 学 科

海洋資源環境学部の他学科に転学科を志願する学生がいる場合は、学部長が許可することがあります。

1. 転学科の時期は、第2年次の学年の始めです。
2. 転学科を志願する者は、第1年次後学期の所定の期間内に「転学科願書」を教務課教務係に提出して下さい。 ※詳細は掲示板にて通知します。
3. 出願要件
出願する者は、次の要件をすべて満たしていなければなりません。
 - (1) 第1年次に在学している学生
 - (2) 一般選抜により本学部に入学者
 - (3) 転学科出願時において、20単位以上修得している学生（当該学期に開講する転学科希望先における全ての必修科目（専門科目を除く。））について、所属学科で開講されている授業科目により修得した単位を含むこと。
 - (4) 転学科出願時において、履修登録した全ての授業科目（成績評価が「認」（T）の科目及び成績評価がされていない後学期科目及び通年科目（I P）を除く。）の70%以上（小数点第一位切上げ）が「A」以上であること。
 - (5) 他学部への転学部の出願をしていない学生（同一年度において、転学部の出願を行った場合には、転学科の出願を取り消すものとする。）
4. 転学科後の授業科目の履修
 - (1) 転学科後は、新しく所属する学科のカリキュラムが適用されます。
 - (2) 転学科前に修得した単位は、新しく所属する学科で修得したものと読み替えて認定します。
 - (3) 転学科前の成績評価は、単位修得の有無に関わらず、全てそのまま移行します。

【学則第30条・転学科取扱要領】

〔9〕 転 学 部

海洋生命科学部及び海洋工学部に転学部を志願する者があるときは、学長が許可することがあります。

1. 転学部の時期は、海洋工学部は第2年次又は第3年次の4月、海洋生命科学部は第2年次の4月です。（海洋工学部の転学部の時期は、学科により異なります。）
2. 転学部を志願する者は、第1年次又は第2年次の所定の期間内に教務課教務係に申し出てください。 ※詳細は掲示板にて通知します。
3. 出願要件（一部抜粋）
 - (1) 一般選抜により本学部に入学者（海洋生命科学部への転学部希望者のみ）
 - (2) 大学入学共通テストにおいて、転学部希望先の各学科が指定する次の教科を受験していること。（海洋工学部は指定なし）

転学部希望先学科	指定教科
海洋生物資源学科	数学，理科，外国語
食品生産科学科	数学，理科，外国語
海洋政策文化学科	指定なし

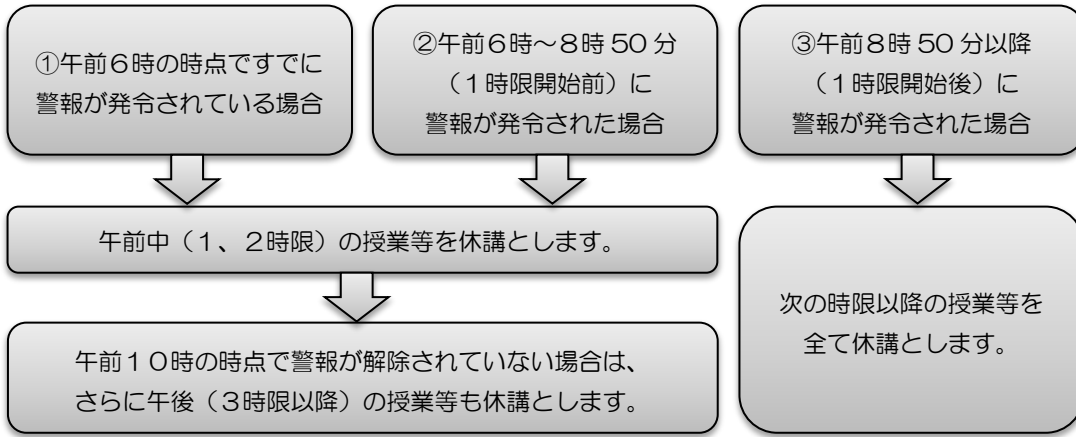
【学則第30条】

[10] 気象警報発令及び交通機関不通時等の授業等の取扱いについて

本学では、台風などの悪天候・災害等における学生の身体の安全を確保すること、並びに交通機関の不通時の対応を目的として、講義、実験、実習、演習、ゼミ、集中授業、定期試験等（以下「授業等」という。）の休講措置等について、次のとおり定めています。

台風による休講の取扱い 判断チャート

- ◆「警報」とは…台風の接近による、暴風特別警報または暴風警報のことをいいます。
- ◆「発令」とは…東京23区のいずれかの区域で発令されることをいいます。



- ◆警報の発令状況は、気象庁のホームページで確認してください。
(<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>)
- ◆台風接近により授業等を休講する場合は、原則として、周知・連絡は行いません。

交通機関不通時の休講の取扱い 判断チャート

- 【品川地区】① JR 山手線が全面運行中止となっている場合
② JR 京浜東北線、JR 東海道線（東京-小田原間）、JR 横須賀線、京急本線のうち
2線以上が全面運行中止となっている場合
- 【越中島地区】JR 京葉線、東京メトロ東西線、東京メトロ有楽町線、都営地下鉄大江戸線のうち
2線以上が全面運行中止となっている場合



- ◆交通機関の運行情報は、交通機関各社の公式ホームページで確認してください。
- ◆本取扱いにより授業等を休講する場合は、原則として、周知・連絡は行いません。

上記以外の理由による休講の取扱い

- ◆以下のような理由により、授業等を休講することを学長が決定した場合は、大学のホームページ、緊急時連絡システム等で周知・連絡します。
- ①気象警報の発令や交通機関の運行中止の発表以前であっても通学困難な状況が予想されるとき
- ②東京23区内に台風接近以外による警報等が発令された場合や、広域にわたる公共交通機関の運休、大規模災害が発生した場合等で、授業等を休講とすることが必要と判断されるとき

- ◆その他の注意事項
- ・キャンパス外で行われる学外実習、教育実習、博物館実習、乗船実習、インターンシップおよび課外活動等については、各実習先担当者の指示に従ってください。
- ・休講となった授業等の補講については、掲示に従ってください。

〔11〕 国立科学博物館の利用

本学は「国立科学博物館 大学パートナーシップ」に加入しています。
 本学の学生証を提示することで、下記施設の常設展が**無料**で利用できます。特典の詳細は下記のとおりです。

特典内容	学生入場料（受講料）	通常入場料 （通常受講料）
常設展	無料	630円
特別展	630円割引	1,700円
博物館実習 「博物館実習Ⅱ」の単位修得ができます。	5,250円 （+教材費2,000円程度）	10,480円
大学生のための科学技術史講座	6,300円	12,600円
大学生のための自然史講座 （隔年で開講、次回令和5年度）	8,400円	16,800円

施設名	郵便番号	住所	URL
国立科学博物館（上野公園）	〒110-8718	東京都台東区上野公園7-20	http://www.kahaku.go.jp/
附属自然教育園	〒108-0071	東京都港区白金台5-21-5	http://www.ins.kahaku.go.jp
筑波実験植物園	〒305-0005	茨城県つくば市天久保4-1-1	http://www.tbg.kahaku.go.jp/

〔12〕 国立美術館の利用

本学は「国立美術館キャンパスメンバーズ」に加入しています。
 本学の学生証を提示することで、下記施設の常設展が**無料**で利用できます。

施設名	郵便番号	住所	URL
東京国立近代美術館（本館）	〒102-8322	東京都千代田区北の丸公園3-1	https://www.momat.go.jp/
国立工芸館（東京国立近代美術館工芸館）	〒920-0963	石川県金沢市出羽町3-2	https://www.momat.go.jp/cg/
国立西洋美術館	〒110-0007	東京都台東区上野公園7-7	https://www.nmwa.go.jp/
国立新美術館	〒106-8558	東京都港区六本木7-2-2	https://www.nact.jp/
国立映画アーカイブ	〒104-0031	東京都中央区京橋3-7-6	https://www.nfaj.go.jp/

〔13〕 障害等のある学生に対する事前相談 について

障害等のある学生で修学上特別な配慮を必要とする方に対し、本学では事前相談を受け付けています。特に本学では授業科目に乗船を伴う実習科目等があり、健康状態によってはこれらの実習科目の履修に制約が生じることがあります。その結果、資格取得の制約となることがありますので、授業の履修に関する配慮を必要とする場合は学期当初に申し出てください。なお、修学上の配慮についての相談は随時受け付けています。

諸 規 則

〔 1 〕 東京海洋大学海洋資源環境学部履修規則

東京海洋大学海洋資源環境学部履修規則

平成29年2月20日海洋大規第84号
平成31年3月22日海洋大規第42号
改正 令和3年3月8日海洋大規第16号
改正 令和3年12月9日海洋大規第157号
改正 令和4年3月23日海洋大規第30号

第1章 総則

(趣旨)

第1条 東京海洋大学海洋資源環境学部（以下「本学部」という。）における教育課程等に関し必要な事項は、東京海洋大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(授業科目の区分)

第2条 授業科目は、総合科目、基礎科目及び専門科目に区分する。

2 授業科目を分けて、必修科目及び選択科目とする。

(単位)

第3条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により計算する。

- 一 講義については、15時間をもって1単位とする。
- 二 演習については、30時間をもって1単位とする。
- 三 実験、実習及び実技については、45時間をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文等については、この授業科目に必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

(卒業の要件)

第4条 本学部を卒業するためには、別表1に掲げる授業科目の区分ごとに定める単位を修得しなければならない。

(早期卒業の要件)

第5条 学則第42条第2項の定めるところにより、本学に3年以上在学した者が、卒業の要件として定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、卒業を認定することができる。

2 早期卒業に関し必要な事項は、別に定める。

第2章 教育課程及び履修方法

(授業科目及び単位数)

第6条 授業科目及び単位数は、別表2のとおりとする。

(履修方法)

第7条 学生は、別表2に定める開講年次に従い、履修するものとする。

2 学生は、授業科目を担当する教員（以下「担当教員」という。）が予め認めた授業科目に限り、当該学生の所属する年次より高年次に開講する授業科目を履修することができる。ただし、セミナー及び卒業論文を除く。

(履修科目の登録)

第8条 学生は、所定の期間内に、その学年において履修しようとする授業科目を所定の方法により登録し、その内容を確認しなければならない。

2 前項の登録内容に不備がある場合は、所定の期間内に所定の方法で修正しなければならない。

(履修登録単位数の上限)

第9条 当該年度中に履修登録できる単位数は、第1年次生及び第2年次生においては各50単位、第3年次生及び第4年次生においては各60単位を上限とする。ただし、前学期又は後学期における履修登録単位数は第1年次生及び第2年次生にあつては各30単位、第3年次生及び第4年次生にあつては各40単位を超えてはならない。

2 前学期又は後学期において、履修登録確認後においてもなおかつ前項の上限を超えている場合には、当該学期の全授業科目の履修登録を無効とする。

3 集中授業(特定期間に集中して行う授業をいう。)、実習、学則第34条、第35条及び第36条に基づき本学において修得したものとみなされた単位、教育の基礎的理解に関する科目等、理科教育法Ⅰ、理科教育法Ⅱ、理科教育法Ⅲ、理科教育法Ⅳ、水産科教育法Ⅰ、水産科教育法Ⅱ及び学芸員に関する科目は、前2項に定める単位数に算入しない。

(他学科等及び他学部の履修)

第10条 学生は、本学部の他学科の授業科目及び他学部の授業科目を履修することができる。ただし、履修可能な科目は当該授業科目を開講する学部及び学科が認めたものに限る。

2 他学部の授業科目の履修を希望する学生は、履修科目の登録期間内の所定の期限までに申し出て、希望する授業科目の担当教員の許可を得なければならない。

3 他学科及び他学部の授業科目で、開講する学部及び学科において卒業に必要な単位数に含まない授業科目は、卒業に必要な単位数に算入しない。

(先行履修)

第11条 第4年次の学生は、第20条に定める卒業論文及びセミナーの指導教員が教育上有益であり修学に支障がないと認め、かつ東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科博士前期課程(以下「大学院」という。)の授業科目の担当教員が履修可能と認めた場合、6単位を限度として先行して履修(以下「先行履修」という。)することができる。

2 先行履修を希望する学生は、「先行履修許可願」に卒業論文及びセミナーの指導教員並びに希望する大学院の授業科目の担当教員の署名又は押印を得て、履修科目の登録期間内に学務部教務課に提出しなければならない。

3 先行履修により修得した単位は、卒業に必要な単位数に算入しない。

(外国人留学生に対する授業科目等の特例)

第12条 学則第47条に規定する外国人留学生に対する授業科目等の特例については、別に定める。

第3章 試験、成績評価及び単位の授与等

(試験)

第13条 定期試験は、授業科目ごとに、当該授業が終了した学期末の所定の期間に行う。ただし、定期試験以外の試験をもってこれに代えることができる。

- 2 定期試験は、履修登録を行った授業科目に限り、受けることができる。
- 3 定期試験は、授業科目の出席時数が全授業時数の3分の2に満たない場合は、受けることができない。

(追試験)

第14条 疾病その他やむを得ない事由で定期試験を受験できなかった者は、追試験を受けることができる。

- 2 追試験を受けようとする者は、当該学期の定期試験の終了後7日以内に、追試験願にその事由を証明する診断書等を添えて、担当教員に提出しなければならない。
- 3 追試験の実施日は、担当教員が指定する。

(成績の評価)

第15条 成績の評価は、平常の学業成績及び定期試験等の成績を総合して行うものとする。

(成績の評価基準)

第16条 成績の評価、評価点及び評価基準は、次のとおりとする。

成績評価		評価点	評価基準
合格	A+	100点～90点	到達目標を達成し、特に優秀な成績を修めている。
	A	89点～80点	到達目標を達成し、優秀な成績を修めている。
	B	79点～70点	到達目標を達成し、良好な成績を修めている。
	C	69点～60点	到達目標を達成している。
不合格	F	59点～0点	到達目標に達していない。

(注) 評価点は、100点を満点とした点数である。

(単位の授与)

第17条 成績評価の結果、合格の評価を得た学生に対しては、所定の単位を与える。

- 2 前項の規定にかかわらず、学則第54条第3号又は第4号の規定に基づき除籍となった学生に対しては、入学料納付期日の属する学期又は授業料未納学期における単位を授与しない。

(再履修)

第18条 不合格となった授業科目の単位を修得するためには、その授業科目を再履修しなければならない。

(修学指導)

第19条 単位修得の状況が不振の学生に対して、個別に修学指導を行うことがある。

- 2 前項の修学指導の対象となる学生の成績等の基準その他修学指導に必要な事項は、別に定める。

第4章 進級、卒業論文及びセミナー

(第3年次への進級の要件)

第20条 第2年次の学年終了時まで、修得した授業科目の単位数の合計が70単位に満たない学生は、第3年次へ進級することができない。ただし、第3年次へ進級できない場合でも、担当教員の許可が得られる場合は、第3年次に開講されている科目を履修することができる。

- 2 前項の進級の要件となる単位数には、第4条（卒業要件）に規定する授業科目の区分ごとに定められた単位数を超えて修得した単位は、算入しない。
- 3 第1項に規定する単位数には、次表の授業科目の単位を含むものとする。

学科 科目区分	海洋環境科学 科	海洋資源エネ ルギー学科	備考
総合科目	14	14	フレッシュマンセミナー（1単位）を含む。
基礎科目	20	20	基礎科目の必修科目及び TOEIC 入門（1単位）を含む。TOEIC 演習（1単位）を含まない。
専門科目の基 礎専門科目	10	10	

（第4年次への進級の要件）

第21条 第3年次の学年終了時までには、総合科目外国語系の単位8単位以上、基礎科目の「TOEIC 演習」を含め、修得した授業科目の単位数の合計が104単位に満たない学生は、第4年次へ進級することができない。ただし、第4年次へ進級できない場合でも、担当教員の許可が得られる場合は、第4年次に開講されている科目を履修することができる。（セミナー及び卒業論文を除く。）

- 2 前項の進級の要件となる単位数には、第4条（卒業要件）に規定する授業科目の区分ごとに定められた単位数を超えて修得した単位は、算入しない。

（卒業論文及びセミナー）

第22条 卒業論文及びセミナーを履修する学生は、所属する学科の教員の中から当該教員の許可を得て、その指導を受けるものとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、所属する学科主任の承認を得た場合は、他学科等の教員の許可を得て、その指導のもとに履修することができる。
- 3 第21条の規定に定める第4年次への進級の要件を満たさない学生は、卒業論文及びセミナーの履修はできない。
- 4 セミナーの単位には、別に定める研究者倫理教育の学修を含むものとする。

（卒業論文の提出）

第23条 卒業論文は、あらかじめ指導教員の許可を得た題目を学務部教務課に届けなければならない。

- 2 卒業論文が完成したときは、指導教員に提出しなければならない。

第5章 免許の取得に関する科目

（教育職員の免許取得）

第24条 学則第37条の規定に基づく、教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする学生は、別表3に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

（学芸員の資格の取得）

第25条 学芸員の資格を取得しようとする学生は、別表4に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

（船舶職員養成施設の修了資格の取得）

第26条 船舶職員養成施設の修了資格を取得しようとする学生は、別表5に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

(海技免許講習の修了資格の取得)

第27条 海技免許講習の修了資格を取得しようとする学生は、別表6に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

(第一級海上特殊無線技士の資格の取得)

第28条 第一級海上特殊無線技士の資格を取得しようとする学生は、別表7に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

(船舶衛生管理者の資格の取得)

第29条 船舶衛生管理者の資格を取得しようとする学生は、別表8に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

第6章 海洋科学専攻科進学

(海洋科学専攻科進学の要件)

第30条 海洋科学専攻科へ進学を志望する者は、第2年次終了後、所定の期間内に専攻科進学願を学務部教務課を経て学部長に提出しなければならない。

2 海洋科学専攻科への進学を志望する者は、別表5及び別表6に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

附 則

1 この規則は、平成29年4月1日から施行する。

2 本学部の各学科は、海洋科学部海洋環境学科の教育課程を承継する学科とし、東京海洋大学再入学規則により再入学を希望する当該学生には、同規則第3条第3項ただし書きの規定を適用する。

附 則 (平成31年海洋大規第42号)

1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。

2 平成31年3月31日に在学する者については、第17条第2項を除き、なお従前の例による。

附 則 (令和3年海洋大規第16号)

1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。

2 令和3年3月31日に在学する者については、第10条第2項及び第30条を除き、なお従前の例による。

附 則 (令和3年海洋大規第157号)

この規則は、令和3年12月9日から施行する。

附 則 (令和4年海洋大規第30号)

1 この規則は、令和4年4月1日から施行する。

2 令和4年3月31日に在学する者及び令和5年度までの編入学者については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表1

授業科目の区分		学科	海洋環境科学科	海洋資源エネルギー学科
		総合科目	共通導入科目	
文化学系			4	4
哲学・科学論系			4	4
社会科学系			4	4
健康・スポーツ系			2	2
外国語系			8	8
自由選択			4	4
基礎科目	必修		12	12
	選択		8	8
	グローバル・キャリア 関連科目	必修	2	2
		選択	(専門科目他学部・他学科等開講科目の単位数に算入)	(専門科目他学部・他学科等開講科目の単位数に算入)
専門科目	基礎専門科目	必修	2	12
		選択	17	15
	必修		4	2
	選択		32	26
			(主選択科目群からの18単位を含む)	(主選択科目群からの9単位を含む)
	卒業研究科目		9	9
他学部・他学科等開講科目		4	4	
卒業に必要な単位			124	124
<p>備考:1 総合科目のうち自由選択については、本学部の総合科目の中から自由に選択し、履修すること。また、海洋生命科学部及び海洋工学部の総合科目のうち、本学部の授業科目と名称が異なるものも含めることができる。</p> <p>2 他学部・他学科等開講科目は、他学部の専門科目及び本学部の他学科の専門科目(所属学科と同一名称又は共通開講の科目を除く。)及び基礎科目のグローバル・キャリア関連科目の選択科目とする。なお、これらの授業科目で、開講する学部・学科において卒業に必要な単位数に含まない授業科目は、卒業に必要な単位数に算入しない。</p>				

別表2

(1) 総合科目

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								備 考		
	1年次		2年次		3年次		4年次			計	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期			
共通導入科目											
フレッシュマンセミナー	①(集中)									①	○印の数字は、必修科目の単位数を表す。
海洋生命科学概論	①									①	
海洋工学概論	①									①	
海洋資源環境学概論	①									①	
情報リテラシー	②									②	
日本語表現法		②								②	
文化学系											
文学		2								2	
人文地理学	2									2	
ヨーロッパ文化論		2								2	
芸術学		2								2	
英米社会文化入門				2						2	
英米表象文化入門			2							2	
哲学・科学論系											
哲学	2									2	
哲学史				2						2	
心理学			2							2	
現代倫理学		2								2	
生命・環境文化			2							2	
科学史	2									2	
技術史				2						2	
社会科学系											
社会学		2								2	
国際法	2									2	
日本国憲法		2								2	
経済学	2									2	
近現代史	2									2	
政治学		2								2	
健康・スポーツ系											
健康科学	2									2	
スポーツ I	1									1	
スポーツ II		1								1	
外国語系											
Basic English I	1									1	
Basic English II		1								1	
Practical English I	1									1	
Practical English II		1								1	
Effective English I			1							1	
Effective English II				1						1	
Interactive English I			1							1	
Interactive English II				1						1	
Intensive English I					1					1	
Intensive English II						1				1	
ドイツ語 I	1									1	
ドイツ語 II		1								1	
ドイツ語 III			1							1	
ドイツ語 IV				1						1	
フランス語 I	1									1	
フランス語 II		1								1	
フランス語 III			1							1	
フランス語 IV				1						1	
ロシア語 I	1									1	
ロシア語 II		1								1	
ロシア語 III			1							1	
ロシア語 IV				1						1	
中国語 I	1									1	
中国語 II		1								1	
中国語 III			1							1	
中国語 IV				1						1	
スペイン語 I	1									1	
スペイン語 II		1								1	
スペイン語 III			1							1	
スペイン語 IV				1						1	
※韓国語 I	2(放送大)	2(放送大)								2	※印の科目の単位数は、放送大学との単位互換協定により修得できる。
※韓国語 II	2(放送大)	2(放送大)								2	

各別表中の(集中)は集中授業を示す。

(2) 基礎科目 [海洋環境科学科]

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								備 考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
必修科目										
基礎微積分Ⅰ	②								②	
基礎微積分Ⅱ	②								②	
物理学	②								②	
化学	②								②	
生物学	②								②	
地学	②								②	
選択科目										
数理解析		2							2	
線形代数		2							2	
数理科学			2						2	
物理数学			2						2	
統計学				2					2	
情報処理論			2						2	
物理学実験				1					1	
化学実験				1					1	
生物学実験			1						1	
地学実験			1						1	
データサイエンス入門A		1							1	
データサイエンス入門B		1							1	

(3) 基礎科目 [海洋資源エネルギー学科]

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								備 考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
必修科目										
基礎微積分Ⅰ	②								②	
基礎微積分Ⅱ	②								②	
物理学	②								②	
化学	②								②	
生物学	②								②	
地学	②								②	
選択科目										
数理解析		2							2	
線形代数		2							2	
数理科学			2						2	
物理数学			2						2	
統計学				2					2	
情報処理論			2						2	
物理学実験				1					1	
化学実験				1					1	
生物学実験			1						1	
地学実験			1						1	
データサイエンス入門A		1							1	
データサイエンス入門B		1							1	

(4) 基礎科目 (学部共通)

授 業 科 目	1年次	2年次	3年次	4年次	計	備 考
グローバル・キャリア関連科目						
TOEIC入門	①				①	
TOEIC演習			①(集中)		①	
グローバルキャリア入門	2(集中)				2	
海外派遣キャリア演習Ⅰ			2(集中)		2	
海外派遣キャリア演習Ⅱ				2(集中)	2	
キャリア形成論Ⅰ	1(集中)				1	
キャリア形成論Ⅱ			1(集中)		1	

(5) 専門科目 [海洋環境科学科]

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								備 考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
基礎専門科目 (必修)										
Natural Sciences			②						②	
基礎専門科目 (選択)										
物理学概論Ⅰ		2							2	
物理学概論Ⅱ			2						2	
化学概論Ⅰ		2							2	
生物学概論Ⅰ		2							2	
地球科学概論Ⅰ		2							2	
化学概論Ⅱ			2						2	
生物学概論Ⅱ				2					2	
地球科学概論Ⅱ				2					2	
データサイエンス				2					2	
数値モデリング					2				2	
数値モデリング演習						1			1	
分析化学			2						2	
●職業指導						1			1	

○印の数字は、必修科目の単位数を表す。

第3年次進級要件
 第2年次終了時までに、下記の単位を含め、卒業に必要な単位を70単位以上修得しなければ、3年次へ進むことができない。

1. 総合科目14単位以上（「フレックス・セミナー」を含む）
2. 基礎科目20単位以上（必修科目及び「TOEIC入門」を含む。「TOEIC演習」を含まない）
3. 専門科目の基礎専門科目10単位以上

●水産科教育法Ⅰ※				2				2	
●水産科教育法Ⅱ※					2			2	
●理科教育法Ⅰ※		2						2	
●理科教育法Ⅱ※			2					2	
●理科教育法Ⅲ※				2				2	
●理科教育法Ⅳ※					2			2	
卒業研究科目									
セミナー							①(集中)		①
卒業論文							⑧(集中)		⑧
専門科目									
物理海洋学Ⅰ			2						2
海底科学Ⅰ			2						2
海洋政策学					2				2
環境アセスメント論					2				2
海域連携利用論				2					2
海洋資源環境キャリア実習Ⅰ				1(集中)					1
海洋資源環境キャリア実習Ⅱ				1(集中)					1
乗船実習Ⅰ		1(集中)							1
乗船実習Ⅱ				3(集中)					3
乗船実習Ⅲ						3(集中)			3
●乗船実習Ⅳ							9(集中)		9
●水産海洋概論Ⅰ	2								2
●水産海洋概論Ⅱ		2							2
専門科目(海洋学科目群)									
物理海洋学Ⅱ				2					2
環境情報解析学Ⅰ			2						2
沿岸海洋学Ⅰ			2						2
沿岸海洋学Ⅱ				2					2
生物海洋学		2							2
化学海洋学				2					2
海洋学研究の最前線				2					2
環境動態学Ⅰ			2						2
環境動態学Ⅱ				2					2
環境情報解析学Ⅱ				2					2
海底科学Ⅱ				2					2
General Oceanography				②					②
海洋学実習Ⅰ		1(集中)							1
海洋学実習Ⅱ				1(集中)					1
海洋科学実験					1				1
海底科学実験					1				1
専門科目(海洋生物学科目群)									
海洋生物学Ⅰ		2							2
海洋生物学Ⅱ		2							2
海洋生物学Ⅲ		2							2
海洋生物学Ⅳ				2					2
環境生命化学Ⅰ				2					2
環境生命化学Ⅱ				2					2
海洋生態学Ⅰ				2					2
海洋生態学Ⅱ					2				2
Aquatic Biology					②				②
海洋生物学研究の最前線					2				2
海洋生物学実験Ⅰ					1				1
海洋生物学実験Ⅱ					1				1
海洋生物学実験Ⅲ					1				1
海洋生物学実験Ⅳ					1				1
環境生命化学実験					1				1
臨海生物学実習				1(集中)					1

第4年次進級要件
第3年次終了時までに、総合科目外国語系の単位8単位以上及び基礎科目の「TOEIC演習」の単位を含め、卒業に必要な単位を104単位以上修得しなければ第4年次へ進むことができない。
なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。

※印の科目について、高等学校教諭一種免許状(理科)を取得するためには理科教育法Ⅰ及び理科教育法Ⅱ、高等学校教諭一種免許状(水産)を取得するためには水産科教育法Ⅰ及び水産科教育法Ⅱの単位を修得すること。また、中学校教諭一種免許状(理科)を取得するためには理科教育法Ⅰ、理科教育法Ⅱ、理科教育法Ⅲ及び理科教育法Ⅳの単位を修得すること。なお、理科教育法Ⅲ及び理科教育法Ⅳについては海洋資源環境学部学生以外は履修できない。

●印の科目は、卒業に必要な単位に含まない。

必修科目4単位の他に、「海洋学科目群」又は「海洋生物学科目群」を選択し、選択科目群からの18単位以上を含めて32単位以上修得すること(必修科目は選択科目群から修得する18単位以上には含まない)。

(6) 専門科目 [海洋資源エネルギー学科]

授業科目	年次及び単位数								備考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
基礎専門科目(必修)										
物理学概論Ⅰ		②								②
物理学概論Ⅱ			②							②
基礎工学Ⅰ				②						②
基礎工学Ⅱ				②						②
General Engineering				②						②
Natural Sciences			②							②
基礎専門科目(選択)										
化学概論Ⅰ		2								2
生物学概論Ⅰ		2								2
地球科学概論Ⅰ		2								2
化学概論Ⅱ			2							2
生物学概論Ⅱ				2						2
地球科学概論Ⅱ				2						2
データサイエンス				2						2
数値モデリング					2					2

○印の数字は、必修科目の単位数を表す。

第3年次進級要件

第2年次終了時までに、下記の単位を含め、卒業に必要な単位を70単位以上修得しなければ、3年次へ進むことができない。
1. 総合科目14単位以上(「フレックス・シユマンセミナー」を含む)
2. 基礎科目20単位以上(必修科目及び「TOEIC入門」を含む。「TOEIC演習」を含まない)
3. 専門科目の基礎専門科目10単位以上

数値モデリング演習				1		1	第4年次進級要件 第3年次終了時まで、総合科目 外国語系の単位8単位以上及び基 礎科目の「TOEIC演習」の単位を 含め、卒業に必要な単位を104単 位以上修得しなければ第4年次へ 進むことができない。 なお、授業科目の区分ごとに定め られた卒業に必要な単位を超えて 修得した単位は、卒業に必要な単 位には算入しない。 ※印の科目について、高等学校教諭 一種免許状(理科)を取得するため には理科教育法Ⅰ及び理科教育法Ⅱ、 高等学校教諭一種免許状(水産)を取 得するためには水産科教育法Ⅰ及び 水産科教育法Ⅱの単位を修得する こと。また、中学校教諭一種免許状 (理科)を取得するためには理科教育 法Ⅰ、理科教育法Ⅱ、理科教育法Ⅲ 及び理科教育法Ⅳの単位を修得する こと。なお、理科教育法Ⅲ及び理科 教育法Ⅳについては海洋資源環境学 部学生以外は履修できない。 ●印の科目は、卒業に必要な単位 に含まない。
分析化学		2				2	
基礎工学Ⅲ				2		2	
電気電子工学			2			2	
●職業指導				1		1	
●水産科教育法Ⅰ※			2			2	
●水産科教育法Ⅱ※				2		2	
●理科教育法Ⅰ※	2					2	
●理科教育法Ⅱ※		2				2	
●理科教育法Ⅲ※			2			2	
●理科教育法Ⅳ※				2		2	
卒業研究科目							
セミナー					①(集中)	①	
卒業論文					⑧(集中)	⑧	
専門科目							
物理海洋学Ⅰ				2		2	
海底科学Ⅰ		2				2	
海底科学Ⅱ			2			2	
海洋政策学				2		2	
環境アセスメント論				2		2	
海域連携利用論			2			2	
海洋資源環境キャリア実習Ⅰ			1(集中)			1	
海洋資源環境キャリア実習Ⅱ			1(集中)			1	
海洋資源エネルギー学実習Ⅰ	1(集中)					1	
海洋資源エネルギー学実習Ⅱ			1(集中)			1	
海洋自然エネルギー学			2			2	
海洋エネルギー工学Ⅰ			2			2	
海洋エネルギー工学Ⅱ				2		2	
Marine Resource and Energy				②		②	
乗船実習Ⅰ		1(集中)				1	
乗船実習Ⅱ			3(集中)			3	
乗船実習Ⅲ					3(集中)	3	
●乗船実習Ⅳ					9(集中)	9	
●水産海洋概論Ⅰ	2					2	
●水産海洋概論Ⅱ		2				2	
専門科目(海洋開発学科目群)							
海洋資源地球化学			2			2	
海洋地盤工学			2			2	
海洋資源工学Ⅰ			2			2	
海洋資源工学Ⅱ				2		2	
海洋資源工学Ⅲ				2		2	
海洋開発学実験				1		1	
海洋開発学研究の最前線				2		2	
専門科目(応用海洋工学科目群)							
海洋計測学				2		2	
海上安全工学				2		2	
海洋音響学			2			2	
沿岸工学			2			2	
応用情報学				2		2	
応用海洋工学実験				1		1	
応用海洋工学研究の最前線				2		2	

別表 3

(1) 教育の基礎的理解に関する科目等

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								備 考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
教職概論	2								2	※印の科目について、中学校教諭一種免許状（理科）を取得するためには道徳教育指導論の単位を修得すること。 なお、道徳教育指導論については海洋資源環境学部学生以外は履修できない。 *印の教育実習の単位は、中学校教諭一種免許状を取得するためには教育実習Ⅱ、高等学校教諭一種免許状を取得するためには教育実習Ⅰ又は教育実習Ⅱの単位を修得すること。
教育原理		1							1	
教育思想史			2						2	
教育心理学			1						1	
特別支援教育概論			1						1	
教育行政論			1(集中)						1	
教育課程論			2(集中)						2	
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法					2(集中)				2	
※道徳教育指導論						2			2	
教育方法学 (ICT活用含む)			2(集中)						2	
生徒指導(進路指導)					2(集中)				2	
教育相談						2(集中)			2	
教職実践演習(中・高)							2(集中)		2	
教育実習指導							1(集中)		1	
*教育実習Ⅰ							2(集中)		2	
*教育実習Ⅱ							4(集中)		4	

(2) 文部科学省令で定める科目

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								備 考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
※日本国憲法		2							2	※印の科目の単位を修得しなければならない。
※スポーツⅠ	1								1	
※スポーツⅡ		1							1	
※TOEIC入門	①								1	
※TOEIC演習					①(集中)				1	
※情報リテラシー	②								2	

(3) 教科及び教科の指導法に関する科目(水産)

別表3(3)の科目を36単位以上修得すること。

学 科 毎 の 授 業 科 目		備考
海洋環境科学科	海洋資源エネルギー学科	
職業指導** 水産科教育法Ⅰ* 水産科教育法Ⅱ*	職業指導** 水産科教育法Ⅰ* 水産科教育法Ⅱ*	※印の一般的包括的内容を含む科目を全て修得すること。 *印の科目について、高等学校教諭一種免許状(水産)を取得するためには、職業指導、水産科教育法Ⅰ及び水産科教育法Ⅱの単位を修得すること。
水産海洋概論Ⅰ※ 水産海洋概論Ⅱ※ 数値モデリング 数値モデリング演習 海底科学Ⅰ 海洋政策学 環境アセスメント論 海洋資源環境キャリア実習Ⅰ 海洋資源環境キャリア実習Ⅱ 環境情報解析学Ⅰ 沿岸海洋学Ⅰ 沿岸海洋学Ⅱ 生物海洋学 海洋学研究の最前線 環境動態学Ⅰ 環境動態学Ⅱ 環境情報解析学Ⅱ 海洋学実習Ⅰ 海洋学実習Ⅱ 海事法規 海上安全工学 電気電子工学 応用情報学 乗船実習Ⅰ 乗船実習Ⅱ 乗船実習Ⅲ 乗船実習Ⅳ	水産海洋概論Ⅰ※ 水産海洋概論Ⅱ※ 数値モデリング 数値モデリング演習 電気電子工学 海底科学Ⅰ 海洋政策学 環境アセスメント論 海洋資源環境キャリア実習Ⅰ 海洋資源環境キャリア実習Ⅱ 海洋資源エネルギー学実習Ⅰ 海洋資源エネルギー学実習Ⅱ 海洋自然エネルギー学 海洋エネルギー工学Ⅰ 海洋エネルギー工学Ⅱ 海上安全工学 応用情報学 応用海洋工学実験 応用海洋工学研究の最前線 海事法規 乗船実習Ⅰ 乗船実習Ⅱ 乗船実習Ⅲ 乗船実習Ⅳ	

(4) 教科及び教科の指導法に関する科目 (理科)

別表3 (4) の科目を36単位以上修得すること。

規定科目	学 科 毎 の 授 業 科 目		
	海洋環境科学科	海洋資源エネルギー学科	備考
教科の指導法	理科教育法Ⅰ 理科教育法Ⅱ 理科教育法Ⅲ 理科教育法Ⅳ	理科教育法Ⅰ 理科教育法Ⅱ 理科教育法Ⅲ 理科教育法Ⅳ	高等学校教諭一種免許状(理科)を取得するためには、教科の指導法4単位(理科教育法Ⅰ2単位及び理科教育法Ⅱ2単位)、物理学2単位、化学2単位、生物学2単位、地学2単位、いずれかの実験から1単位(※)を含め36単位以上修得すること。
物理学	物理学* 物理学概論Ⅰ 物理学概論Ⅱ 物理海洋学Ⅰ	物理学* 物理学概論Ⅰ 物理学概論Ⅱ 基礎工学Ⅰ 基礎工学Ⅲ 海洋資源工学Ⅱ	中学校教諭一種免許状(理科)を取得するためには、教科の指導法8単位(理科教育法Ⅰ2単位、理科教育法Ⅱ2単位、理科教育法Ⅲ2単位及び理科教育法Ⅳ2単位)、物理学2単位、化学2単位、生物学2単位、地学2単位、各実験ごとにそれぞれ1単位(※)を含め36単位以上修得すること。なお、中学校教諭一種免許状(理科)取得に必要な「教科及び教科の指導法に関する科目」については、全ての必要単位を本表記載の科目により修得すること。
化学	化学* 化学概論Ⅰ 化学概論Ⅱ 分析化学 環境生命化学Ⅰ 環境生命化学Ⅱ	化学* 化学概論Ⅰ 化学概論Ⅱ 分析化学 海洋資源地球化学	
生物学	生物学* 生物学概論Ⅰ 生物学概論Ⅱ 海洋生物学Ⅱ 海洋生物学Ⅲ 海洋生物学Ⅳ	生物学* 生物学概論Ⅰ 生物学概論Ⅱ	
地学	地学* 地球科学概論Ⅰ 地球科学概論Ⅱ	地学* 地球科学概論Ⅰ 地球科学概論Ⅱ 海洋資源工学Ⅰ 海底科学Ⅱ 海洋地盤工学	*各規定科目ごとに、*印の一般的包括的内容を含む科目を1科目以上履修すること。
物理学実験(コンピュータ活用を含む。)※	物理学実験*	物理学実験*	
化学実験(コンピュータ活用を含む。)※	化学実験* 環境生命化学実験	化学実験*	
生物学実験(コンピュータ活用を含む。)※	生物学実験* 海洋生物学実験Ⅰ 海洋生物学実験Ⅱ 海洋生物学実験Ⅲ 海洋生物学実験Ⅳ	生物学実験*	
地学実験(コンピュータ活用を含む。)※	地学実験*	地学実験*	
その他			

別表4 学芸員に関する科目

授業科目	年次及び単位数								備考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
博物館学Ⅰ			2						2	本表の科目は、卒業に必要な単位に含まない。
博物館学Ⅱ			2(集中)						2	
博物館学Ⅲ					2				2	
博物館学Ⅳ					2(集中)				2	
博物館学Ⅴ					2				2	
博物館実習Ⅰ					2(集中)				2	
博物館実習Ⅱ							1(集中)		1	
博物館教育論			2						2	
生涯学習指導論			1						1	
生涯学習社会論			1						1	
教育方法学(ICT活用含む)			2(集中)						2	
海洋植物学	年次及び単位数は海洋生命科学部履修規則 別表2(3)								大学指定科目 これらの科目から4単位以上を修得すること。	
海洋動物学	専門科目[海洋生物資源学科]のとおり									
海洋生物学Ⅰ	年次及び単位数は別表2(5)									
海洋生物学Ⅱ	専門科目[海洋環境科学科]のとおり									
海洋生物学Ⅲ										
生物学概論Ⅰ										

別表5 船舶職員養成施設の修了資格に関する科目

授業科目	年次及び単位数								備考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
海洋計測学	年次及び単位数は別表2(6) 専門科目[海洋資源エネルギー学科]のとおり								両学科で開講されている科目は、所属学科の別表2に基づき履修すること。	
応用情報学										
電気電子工学										
海上安全工学										
乗船実習Ⅰ										
乗船実習Ⅱ	年次及び単位数は別表2(5) 専門科目[海洋環境科学科]又は別表2(6) 専門科目[海洋資源エネルギー学科]のとおり									
乗船実習Ⅲ										
乗船実習Ⅳ										
環境動態学Ⅱ										
海事法規	年次及び単位数は海洋生命科学部履修規則 別表2(7) 専門科目[海洋政策文化学科]のとおり									

別表6 海技免許講習の修了資格に関する科目

授業科目	年次及び単位数								備考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
乗船実習Ⅰ	年次及び単位数は別表2(5) 専門科目[海洋環境科学科]又は別表2(6) 専門科目[海洋資源エネルギー学科]のとおり								レーダー観測者講習に関する科目 所属学科の別表2に基づき履修すること。	
Basic EnglishⅠ	年次及び単位数は別表2(1) 総合科目のとおり								上級航海英語講習に関する科目 2単位以上修得すること。	
Basic EnglishⅡ										
Effective EnglishⅠ										
Effective EnglishⅡ										
Interactive EnglishⅠ										
Interactive EnglishⅡ										

別表7 第一級海上特殊無線技士の資格に関する科目

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数						備 考			
	1年次		2年次		3年次			4年次		計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		前学期	後学期	
海洋計測学	年次及び単位数は別表2(6) 専門科目[海洋資源エネルギー学科]のとおり						両学科で開講されている科目は、所属学科の別表2に基づき履修すること。			
乗船実習Ⅰ	年次及び単位数は別表2(5) 専門科目[海洋環境科学科]又は									
乗船実習Ⅳ	別表2(6) 専門科目[海洋資源エネルギー学科]のとおり									

別表8 船舶衛生管理者の資格に関する科目

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数						備 考			
	1年次		2年次		3年次			4年次		計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		前学期	後学期	
健康科学	年次及び単位数は別表2(1) 総合科目のとおり						両学科で開講されている科目は、所属学科の別表2に基づき履修すること。			
スポーツⅠ										
スポーツⅡ										
乗船実習Ⅰ	年次及び単位数は別表2(5) 専門科目[海洋環境科学科]又は 別表2(6) 専門科目[海洋資源エネルギー学科]のとおり									
乗船実習Ⅱ										
乗船実習Ⅲ										
乗船実習Ⅳ										
海と健康	年次及び単位数は海洋生命科学部履修規則 別表2(7) 専門科目[海洋政策文化学科]のとおり									

2022 年度

履修ガイド

東京海洋大学 学務部 教務課

〒108-8477 東京都港区港南4-5-7